

活動プログラム ガイドブック



〈皆既月食・天王星食〉



〈木星〉



〈かわなNASAの大望遠鏡と冬の星座〉

浜松市かわな野外活動センター

人との出会い

- ・・・ 友達の良さ、自分の良さ、協力の大切さを考えるきっかけに

自然との出会い

- ・・・ 五感をはたらかせ、豊かな自然に生かされている自分に気付くきっかけに

非日常との出会い

- ・・・ 非日常の中から生活の原点を見つめ直し、日々の平常生活を感謝しながら自分を成長させるきっかけに

活動プログラム 目次&一覧表

△…要相談
×…不適

☆=所員支援有 ★…所員支援要相談

☆=所員支援有 ★…所員支援要相談

活動プログラム作成のながれ

指導者の
ねらい

子どもたちの
興味や関心

3つの出会い
(人・自然・非日常)

1 活動プログラム立案

チェック①普段は体験できない「かわな」だからできる活動ですか？
②活動は精選され、時間にゆとりがありますか？
③返納、片付け、清掃もひとつの活動にとらえていますか？
※利用の手引きP16～17参照

事前打ち合わせの1週間前まで

2 活動プログラム原案の提出

※郵送やFAX、またはメールにて

利用予定日の約40日前まで

3 事前打ち合わせ(活動プログラム検討)

チェック①指導者が前面に立って参加者を導けますか？
②指導者は、参加者数に合った人数分確保されていますか？
③指導者の役割分担はできていますか？

4 活動プログラムの修正～完成

利用当日の3週間前まで

5 必要書類の提出①

※郵送やFAX、またはメールにて

6 利用当日(必要書類の提出②)

7 振り返り

チェック①「子どもたちの興味や関心」に寄り添い、活動意欲が高められましたか？
②「指導者のねらい」は達成できましたか？
③「3つの出会い(人・自然・非日常との出会い)」に触れられましたか？

※2～6の詳しいながれは、利用の手引きP.11を参照してください。

下見
(確実に！)

重要!

ポイント

各活動プログラムを安全・充実させるために

0 下見（事前に！確実に！）

重要!

1 始めの会（例）

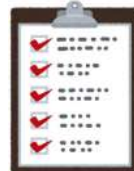
(1) 健康観察～人員点呼

(2) 安全・マナー支援

※以下は例

- ①「グループ全員で、まとまって行動しましょう。」
- ②「車道、山道に関わらず、一列で歩きましょう。」 ※交通ルール含む
- ③「フィールドマナーを守りましょう。」
 - ごみは持ち帰りましょう。
 - 生き物（動物・植物）は大切にしましょう。
 - 立ち入り禁止の場所には入りません。
- ④「熱中症にならないために、喉が渇く前に水分をこまめに補給しましょう。」
- ⑤「アクシデントが発生したら、大人のいるポイントに引き返しましょう。」
 - 道に迷った
 - メンバーの体調不良
 - 雷・大雨

(3) やり方の説明（持ち物・装備の確認含）



2 各種活動



3 終わりの会（例）

(1) 健康観察・人員点呼

(2) 振り返り

(3) 今後に生かすアドバイス



オススメ！事前指導

☆グループごとに人員点呼

→例：「1!」「2!」「3!」…「〇班△人、全員集合しました!」

☆伝言作戦で情報共有

→先頭者から後続者に必要な情報を伝言していく



オススメ！事前準備

☆地図はラミネート処理を

→水分や汚れに強く破れません

☆地図は各グループ最低2枚を

→リーダー以外にも地図を共有することで、相談の和（輪・円）が生まれます。

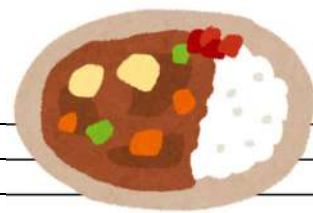


活動名	入所式・退所式																							
概要と期待できる教育的効果	- センター到着と出発のタイミングに式を行うことで、気持ちを切り替える節目やけじめを実感することができる。 - センター所長の話を聞くことで、3つの出会いと危険生物と安全について、意識を高めたり振り返ったりすることができる。																							
諸条件	場 所	各広場・体育室・ホール等	対 象	すべて																				
	所要時間	所長の話は約5分間	人 数	制限なし																				
	時 期	全シーズン	天 候	雨天可（荒天時は要相談）																				
	センター所員の支援	有・無	その他																					
準備物	センターが貸し出す物		団体（個人）が準備する物																					
	☐ 国旗 ☐ 市旗 ☐ 所旗		適宜 考えられる準備物 ————— ☐ ハンドマイク ☐ 団体旗 ☐ ミュージックプレーヤー 等																					
活動内容（手順）	入所式（例） <table border="1"> <tr> <td>所要時間</td><td>内 容</td></tr> <tr> <td></td><td>① はじめの言葉</td></tr> <tr> <td>5分間</td><td>② 所長の話</td></tr> <tr> <td></td><td>③ 連絡事項</td></tr> <tr> <td></td><td>④ 終わりの言葉</td></tr> </table>		所要時間	内 容		① はじめの言葉	5分間	② 所長の話		③ 連絡事項		④ 終わりの言葉	退所式（例） <table border="1"> <tr> <td>所要時間</td><td>内 容</td></tr> <tr> <td></td><td>① はじめの言葉</td></tr> <tr> <td>5分間</td><td>② 所長の話</td></tr> <tr> <td></td><td>③ 感想発表</td></tr> <tr> <td></td><td>④ 終わりの言葉</td></tr> </table>		所要時間	内 容		① はじめの言葉	5分間	② 所長の話		③ 感想発表		④ 終わりの言葉
所要時間	内 容																							
	① はじめの言葉																							
5分間	② 所長の話																							
	③ 連絡事項																							
	④ 終わりの言葉																							
所要時間	内 容																							
	① はじめの言葉																							
5分間	② 所長の話																							
	③ 感想発表																							
	④ 終わりの言葉																							
	※ 式の司会進行は、団体主導で進めてください。 ※ 上記流れは一例です。 ※ 退所式終了後、所員がお見送りします。																							
想定されるリスク	□転倒（起立、直立の状態からの貧血、疲れによる）																							

活動名	入室オリエンテーション（宿泊棟利用）			
概要と期待できる教育的効果	・ 宿泊棟の利用について説明を受けることで、安全に正しく宿泊生活を行うことができる。 ・ 普段の生活と比較しながら説明を受けることで、非日常的な生活から普段の生活に感謝の気持ちを抱くきっかけにすることができる。			
諸条件	場 所	宿泊をする宿泊棟ごと	対 象	すべて
	所要時間	約20～30分間	人 数	宿泊棟に宿泊する全員
	時 期	全シーズン	天 候	制限なし
	センター所員の支援	有 ・ 無	その他	
準備物	センターが貸し出す物 なし		団体（個人）が準備する物 適宜	
活動内容（手順）	所要時間： 内 容			
	5分	1 お出迎え ①お部屋の案内（1の部屋・2の部屋） ②荷物の置き方支援		
	25分	2 入室オリエンテーション ①持ち物の整頓 ②部屋の違い ③部屋・トイレの使い方 ④布団の敷き方・たたみ方・シーツ返却の方法 ⑤避難経路 ⑥掃除の仕方		
	※ 終了後、宿泊棟の各部屋指導責任者に「退室チェックカード」を渡しながらか補足説明します。			
想定されるリスク	口転倒（走ったり、ふざけあったりしてつまづく、すべる）			

活動名	入営オリエンテーション（キャンプ場利用）			
概要と期待できる教育的効果	- キャンプ場の利用について説明を受けることで、安全に正しくテント生活を行うことができる。 - 普段の生活と比較しながら説明を受けることで、非日常的な生活から普段の生活に感謝の気持ちを抱くきっかけにすることができる。			
諸条件	場 所	別館多目的ホール大 他	対 象	すべて
	所要時間	約10～90分間	人 数	キャンプ場で宿泊する全員
	時 期	4～10月	天 候	制限なし
	センター所員の支援 有 ・ 無		その他	
準備物	センターが貸し出す物 □毛布		団体（個人）が準備する物 適宜（寝袋等）	
活動内容（手順）	所要時間：			

活動名	炊飯活動 ワイルドカレー			
概要と期待できる教育的効果	・ 野外で調理することの楽しさと、作り上げる達成感を味わうことができる。 ・ グループで協力して活動することの楽しさを感じたり、意義を学んだりすることができる。			
諸条件	場 所	炊飯棟ABCDEFGG (各炊飯棟かまど9カ所)	対 象	小学生高学年以上
	所要時間	3時間～4時間	人 数	各炊飯棟ごと約40人まで 1グループ6～7人が適当 (6グループ以下が適当)
	時 期	全シーズン	天 候	雨天可(荒天時は要相談)
	センター所員の支援	有 ・ 無 ※支援の内容についての軽重、相談可	その他	炊飯活動終了後に「返納点検」を実施
準備物	センターが貸し出す物(各班)		団体(個人)が準備する物	
	・ 炊飯セット(1セット＝8人分) しゃもじ×1、おたま ×1 ざる ×1、ボール ×1 湯のみ ×8、カレー皿×8 コップ(なべ大小)×各1 スプーン×8 ・ まな板×2・包丁×2・菜箸×1 ・ たわし なた×1 ・ スポンジ×2			



炊飯棟の使い方と注意事項

炊飯棟の使い方

- 1 かまど
番号のかまどを使う。



- 2 調理台
○炊飯棟の両側にかかっている台ふきできれいにふいて使う。
○机の上を整とんする。
○雨天時は所員の指示で炊飯棟内に荷物を置く。

- 3 流し
流しを使い分ける。
「なべ」
⇒炊飯棟左右の流しで！
「なべ以外のもの」
⇒入口の流しで！

- 4 なべ敷き（＝新聞紙）
火にかけたなべを置くときに必ず使う。（右写真）
※テーブルの上に直接置くとすすだらけになってしまうので注意する！



- 5 ごみ
○「生ごみ」と「それ以外のごみ（プラ・ビニール・紙など）」を分ける。
○新聞紙は「新聞紙入れ」にたたんで入れる。
○持ち帰るごみは、ゴミ袋を団体で用意する。

注意事項

※「なべ」は、「コップェル」とも言います。

- 1 〇ー157・ノロウイルス・新型コロナウイルス対策
○熱湯消毒をします。☞「食器」「包丁」「まな板」「スプーン」等
○手洗いをしっかり！☞手洗い用せっけんが用意されています。
○包丁とまな板の使い分け☞野菜用に使うこと！生肉には使用しません！

- 2 やけどをしないために
○軍手をはめる。
○なべのつまを持たない。
○なべのふたは、火ばさみを使って開ける。

【なべの持ち方】



【ふたの開け方】



- 3 安全な「なた」の使い方
○なたを持つ手は素手にする。
○なたを絶対に振り下ろさない！
○かまどの方を向いてまきを割る！
○かまど回りの整理整とんを心がける！（まきの整理）

【まきの割り方】



- ①なたの刃（手前側）をまきのかどにななめに当てる。



まきを持つ！（軍手）

- ②そのまま「なた」と「まき」を一緒に、軽く数回、台に当てて、刃をまきにくいこませる。



まきを
持たない！



- ③両手（または利き手）で、まきを割る。（「節」がある場合など、無理をしない。）

コッフェル(鉄なべ)で炊く ごはん

1 米をとぐ



米を「なべ(大)」に入れて、手で優しくかき混ぜるようにして米を洗う。水をこぼして取りかえる。これを2、3回くり返す。

※「なべ」は、「コッフェル」とも言います。

2 水を入れる



平らにした米の上に、手のひらを軽くのせ、手の甲が水にかくれるぐらいまで水を入れる。

重要

必ず、水の量を先生や所員さんに確かめてもらおう。

3 炊く①



強火で炊く。

炎はなべの底に当たるぐらいでOK!

強すぎるとこげてしまうよ。

4 炊く②



火にかけて5分～10分でふたの横から煮汁が出てくる。

煮汁が出てこなくなる前にふたを開けてごはんの様子を見る。

5 確かめる



ポツポツと穴があいていたらOK。

水が残っていたらふたをして1～2分弱火にかける。

そして、またふたを開けて確かめる。

6 むらす



火からおろしてかまどの横に置いてむらす。むらしてからは、ふたを開けない!



できあがり!

重要

何回ふたを開けて確かめても大丈夫!

自分たちの目で確かめよう!

かわな流 ワイルドカレー の作り方

1 野菜を切る



野菜を適当な大きさに切る。(肉は切らずにほぐし、野菜の上に、そのまま入れる。)

じゃがいもやにんじんは、うすく切る(1cmぐらい)と火が通りやすくなるよ。

2 材料と水を入れる



材料をすべてなべ(小)に入れる。(野菜の上に肉)
材料と同じくらいの高さまで水を入れる。

カレールーは、絶対入れないで。最後に！

油でいためません！！

3 火にかける



強火で煮る。

湯気が出てから10分ぐらい煮込もう。

4 じゃがいもを確かめる



じゃがいもにはしがるまで煮込む。おたまですくって確かめる。

食べてみるとやわらかさがよく分かります。(やけどに注意してね！)

5 カレールーを入れる



水加減に注意！

カレールーを入れてよくかき混ぜる。

重要

危ないので、なべは、いったん火の外側に移動します。

その後、袋をはさみで切ってから、ルーをなべに入れ、かき混ぜましょう。

6 仕上げ

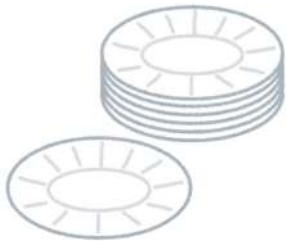


とろみがでたらできあがり。

煮込みすぎない！こげてしまいます。



ワイルドカレー

活動名	返納点検			
概要と期待できる教育的効果	「借りたもの」を大切に扱うことで、感謝の気持ちと責任感を高めることができる。 - 前回と次のそれぞれの団体を意識することで、「来た時と同じ状態にする」大切さを学ぶことができる。			
諸条件	場 所	炊飯棟ABCDEFGG (各炊飯棟かまど9カ所)	対 象	小学生高学年以上
	所要時間	30～60分間	人 数	原則全員参加
	時 期	全シーズン	天 候	雨天可（荒天時は要相談）
	センター所員の支援	有 ・ 無	その他	炊飯活動終了後に実施
準備物	センターが貸し出す物 無し 		団体（個人）が準備する物 - 個人 □ふきん（1枚） - 班 □メラミンフォーム（激落ちくん） - 炊飯棟ごと □食器洗い用洗剤（液体中性洗剤） □なべ（コッフェル）洗い用洗剤（液体クレンザー、ジフなど）	
活動内容 (手順)	所要時間	内 容		
	5分	返納点検オリエンテーション □全体の流れ □役割分担の仕方 □ふきん、メラミンフォームの使い方		
	25～ 50分	返納点検～あいさつ		
	5分	ふりかえり		
想定されるリスク	□転倒（急いで走ったり、ふざけたりしてつまづく）			

かたづけのコツと返納について

かたづけのコツ

- 1 なべを水につけておく。
全部もりつけた後、流し場に水をためてなべ全体を水中に入れる。→よごれが落ちやすくなる。

2 手分けして洗う

「なべ」

外側・・・ナイロンたわし (A) とクレンザーでみがき、すすを落とす。

内側・・・亀の子たわし (B) でみがく。

※こげた場合は、ステンレスたわし (C) を使う。B

「なべ以外」

⇒スポンジと食器用洗剤で洗う！

※食器にすすがついた場合は、クレンザーでこする。

A



C



3 かまどや調理台の片付け

- 燃え残りのまきは、1か所に集めて燃やしきる。(所員)
- 灰は缶に入れ、水をかけておく。水は入れ過ぎず、灰が浸る程度で十分。
- 調理台の上を整頓し、台ふきできれいにする。
- 返納が翌日の場合は、食器等の水気を取り、数を確認して、コンテナに収納する。(写真1) また、炊具セットに新聞をかけておく。(ほこり等がつくのを防ぐため) 風で飛ばないように注意する。

4 炊飯活動責任者の点検

「かまど」

「調理台」

「ごみ入れ・灰の缶」
を点検してください。

※指導者に点検表を渡します。

写真1：翌日返納の場合のコンテナ



返納について

写真2：返納点検時の準備



コンテナの中身

かご なべ (大) なべ (小)
カレー皿×8 湯飲み×8
スプーン×8 ボール ざる
おたま しやもじ マニュアル

事前準備 (班ごと)

- ①一人1枚ふきん (古タオル) を用意しておく。
- ②班でいくつかメラミンフォーム (激落ちくん) を持っているといい。
- ③テーブルの上、コンテナの中をふいておく。
- ④炊具セットの中のものすべて出して、テーブルの上にならべてかわかしておく。※スポンジも (写真2)

③ やり直しが多いよごれ

なべ (コッフェル)・底のかどにあたるどころのご飯のぬめり

- ・カレールーの色やぬめり
- ・ふたのふち・つるの先のよごれ

食器・すすのよごれ (指もののあと)

水でぬらさずに、乾いたメラミンフォーム (激落ちくん) で、消しゴムのようにこすると、とてもきれいになります！

所員が「数」「よごれ」を点検しながら、コンテナにおさめていきます。

点検が終わった炊具セットを山荘に運んで終了です。

活動名	ハイキング・冒険トレッキング				
概要と期待できる教育的効果	- 決められたコースを登り切ったり、歩き通したりすることで、達成感を味わったり、自信につなげたりすることができる。 - 仲間と励まし合いながら登ったり、歩いたりすることで、仲間意識を深めたり、協調性を育んだりすることができる。 - 霧山を背にいなさ湖に臨んでいる自然豊かなコースを歩くことで、雄大な四季折々の自然を体感することができる。				
諸条件	場 所	センター場内～周辺	対 象	すべて	
	所要時間	P30～33参照	人 数	制限なし	
	時 期	全シーズン	天 候	荒天不可・雨天相談	
	センター所員の支援	有 ・ (無)	その他	資料をホームページよりダウンロード可	
準備物	センターが貸し出す物 無線機（親機）×1台 無線機（子機）×14台 ※各上限		団体（個人）が準備する物 ☐ 地図（ラミネート処理を推奨） ☐ 救急用品 ☐ 登山装備（雨具・防寒具等） ☐ 水分 等		
活動内容（手順）	所要時間： 内 容				
	10分	始めの会（P2参照）			
	※P13「ハイキング おすすめポイント」やP30～33「ウォークラリー」のコースを参考にして歩くコースを設定する。 ※P24、P25「冒険トレッキング」を参考に、「ウォークラリー」のコースを使い独自の冒険トレッキングを実施する。 ※「ウォークラリー」で決められたコース以外を使い、団体やグループで独自に設定してもよい。				
	10分	終わりの会（P2参照）			
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐ 疲労による事故（熱中症含む） ☐ 山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐ 人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）				



おすすめポイント ※ルートはP30～33「ウォークラリー」参照

霧山山頂

春秋の朝夕は深い霧につつまれることがあることから霧山と呼ばれます。ここでは、標高430mから望むかわな最大の絶景を楽しむことができます。南西方向にはきらきらと輝く奥浜名湖の湖面が、さらに遠くにはうっすらと太平洋が見えます。反対側の東方向には観音山、そして晴れた日には富士山が見えます！

浦山展望台

生い茂った木々の中を少し汗ばみながら登って行くと、急に視界が開けて絶景が飛び込んできます。山頂からの景色に勝るとも劣らない東側の絶景は、疲れを一気に吹き飛ばします！幼児や低学年向けのハイキング、霧山山頂までの休憩ポイントにおすすめです。

見下ろし岩

場内の施設を一望できる唯一の場所です。本館はもちろん、F G炊飯棟、宿泊棟、天体観測棟などが見え、本館周りで活動している人の姿や声も感じることができます。遠くには滝沢山から三岳山に並ぶ風車の数々も見ることができます。

いなさ湖西側道路・公園（遊歩道）

いなさ湖の湖岸道路では、いなさ湖や観音山などを眺めながら歩くことができます。湖畔の遊歩道では、水際の散歩を楽しんだり、東（あずま）屋などで休憩したりすることができます。トイレもあるので安心です。四季折々の自然の美しさをぜひ感じてください。

都田川ダム

このダムは、洪水防止、かんがい用水や水道用水の水源確保の目的で、昭和 61 年度（1986 年度）に完成したロックフィルダムです。都田川をせき止めたことによってできたダム湖が「いなさ湖」と名付けられています。ダムの上から眺める霧山、観音山、いなさ湖もまた格別です。

川名地区

霧山と三岳山の間にある引佐町川名は、昔ながらの里山の風景が広がり、伊豆神社や井伊直平のお墓など、数多くの史跡が残っている地域です。毎年1月4日に行われる祭り『川名ひよんどり』は、国指定の重要無形民俗文化財にも指定されています。（※活動プログラムP74・75参照）

滝沢展望台

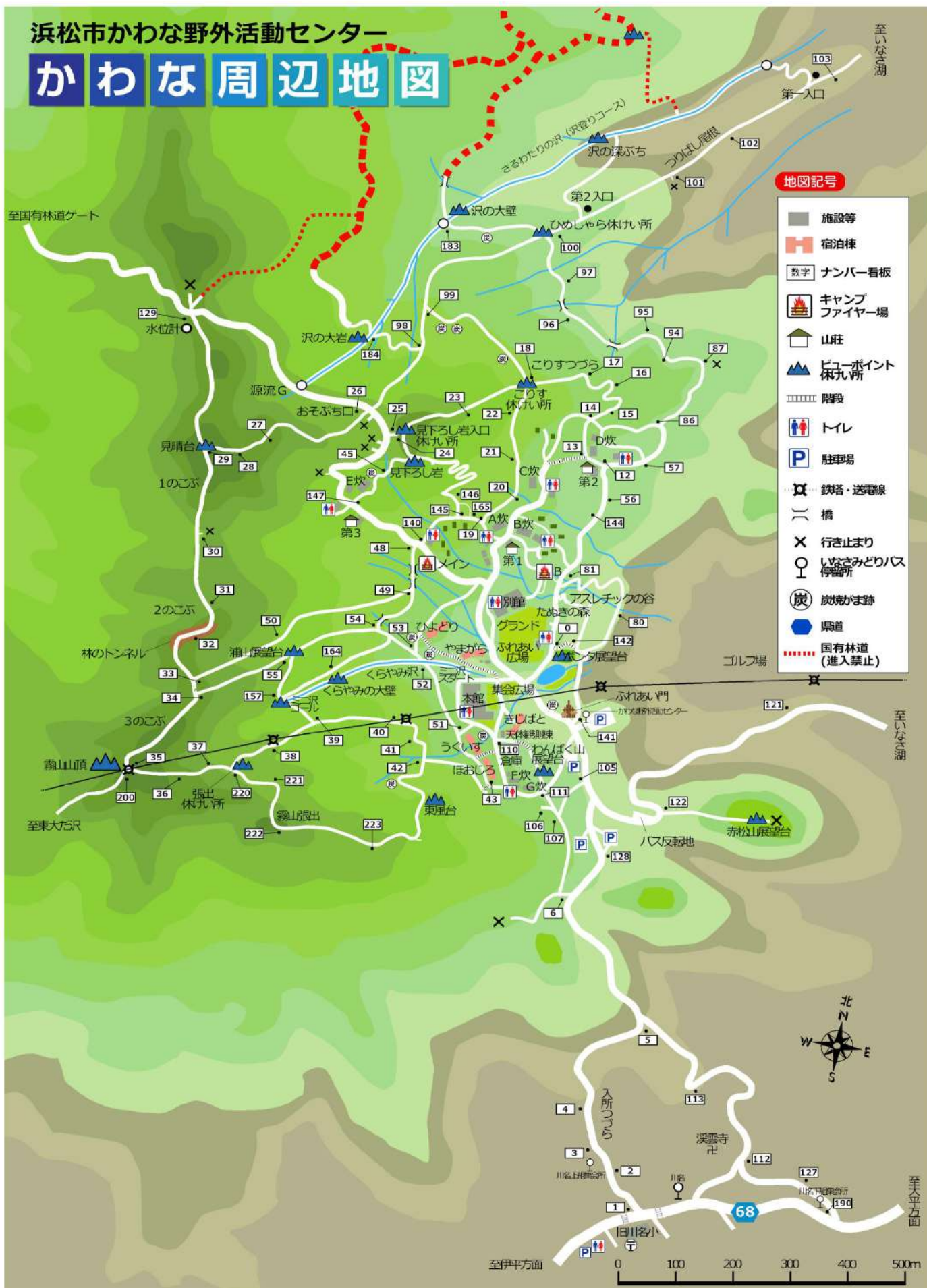
感動的な絶景を見ることができる標高約 380mの展望台です。アクトタワーや浜名湖など浜松市街を一望できるのはもちろん、遠くは遠州灘、天竜川、磐田原台地も見渡す事ができます。

その他

- わんぱく山展望台…自然木と松いす、ガーデンテーブルのある憩いの広場です。
- ポインタ展望台 …本館から最も近い展望台です。ここから見る日の出は最高です。
- 東風台 …いなさ湖、都田川ダムを見ることができます。

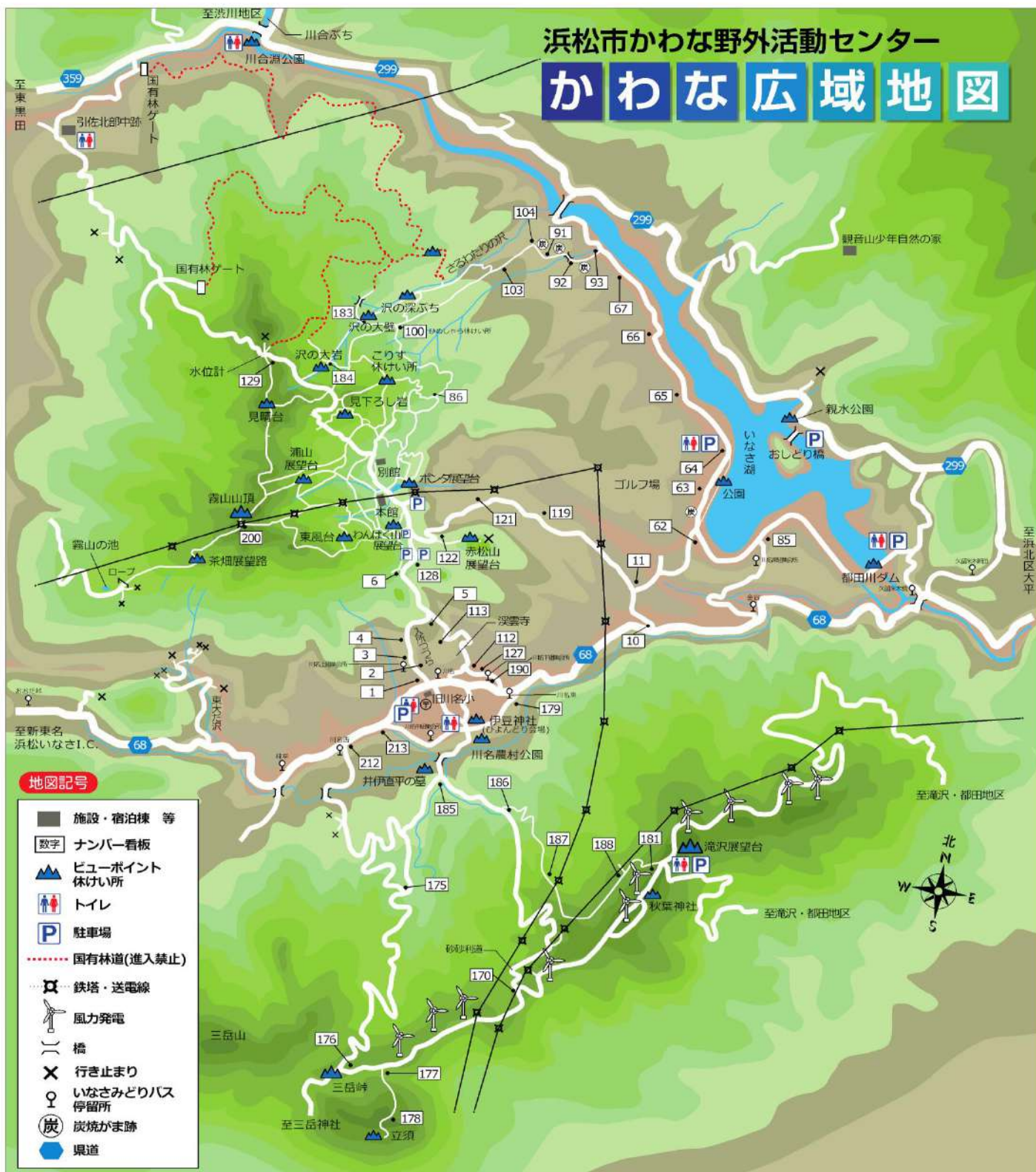
浜松市かわな野外活動センター

かわな周辺地図



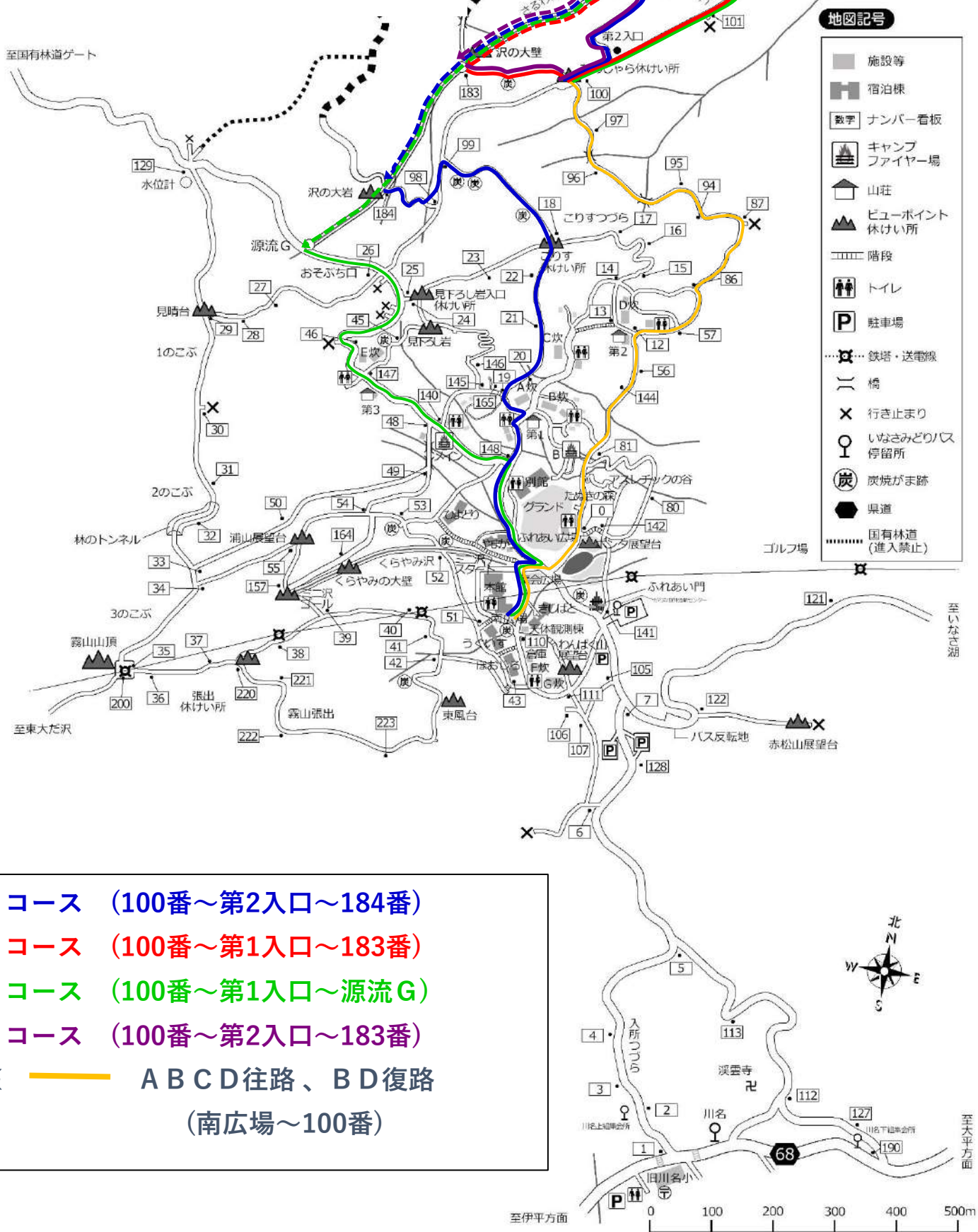
浜松市かな野外活動センター

かな広域地図



活動名		沢登り																					
概要と期待できる教育的効果	- 森林内での沢登りを通して、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深めるきっかけにすることができる。 (森林環境教育の導入として) - 沢の水の冷たさを感じながら、沢を安全に登り切ることで、達成感を味わったり、自信につなげたりすることができる。 - 仲間と励まし合いながら登ることで、仲間意識を深めたり、協調性を育んだりすることができる。 - サワガニやホトケドジョウなどを観察することで、清らかな水に育まれる生き物のたくましさや素晴らしさを体感することができる。																						
諸条件	場 所	集合場所…南広場	対 象	小学生高学年から																			
	所要時間	1時間45分～4時間30分	人 数	制限なし																			
	時 期	全シーズン ※冬はお勧めしません	天 候	荒天不可・雨天相談																			
	センター所員の支援	(有) ・ 無	その他	資料をホームページよりダウンロード可																			
準備物	センターが貸し出す物		団体(個人)が準備する物																				
	☐ヘルメット小 ×150 ☐ヘルメット大 × 40 ☐ライフジャケット小×200 ☐ライフジャケット大× 90 ☐指導者用マフ ※各上限		☐救急用品 ☐登山装備(防寒具等) (☐水筒を持っていく場合…濡れてもよいナップサックなど) ☐ヘルメット(持参を推奨) ※P.21参照																				
活動内容(手順)	所要時間: 内 容																						
	20分	トイレを事前に済ませておく 装着説明(所員主導) ①荷物の確認～着替えの説明 ②ライフジャケット(ヘルメット)の受け取り ※準備説明の裏側で、指導者と所員の最終打ち合わせ ☐ コースの確認 ☐ 特別対応者の有無 ☐ 人員点呼～健康観察のタイミングと場所 など																					
	10分	出発式(所員主導) ①人員点呼～健康観察 ②森林環境教育について ③沢登りの約束(服装と装備の確認)																					
		<table><tr><td rowspan="5">通常選択</td><td>A</td><td>100～第2入口～184</td><td>約2時間30分</td></tr><tr><td>B</td><td>100～第1入口～183</td><td>約3時間30分</td></tr><tr><td>C</td><td>100～第1入口～源流ゴール</td><td>約4時間30分</td></tr><tr><td>D</td><td>100～第2入口～183</td><td>約2時間</td></tr><tr><td>E</td><td>100～183～源流ゴール</td><td>約1時間45分</td></tr><tr><td colspan="4">※時間は実際に歩く時間です</td></tr></table>			通常選択	A	100～第2入口～184	約2時間30分	B	100～第1入口～183	約3時間30分	C	100～第1入口～源流ゴール	約4時間30分	D	100～第2入口～183	約2時間	E	100～183～源流ゴール	約1時間45分	※時間は実際に歩く時間です		
通常選択	A	100～第2入口～184	約2時間30分																				
	B	100～第1入口～183	約3時間30分																				
	C	100～第1入口～源流ゴール	約4時間30分																				
	D	100～第2入口～183	約2時間																				
	E	100～183～源流ゴール	約1時間45分																				
※時間は実際に歩く時間です																							
	10分	返却説明(所員主導)※指導者のサポートが必要です ☐ ヘルメット返却～ライフジャケット返却																					
	5分	到着式(所員主導) ※到着式をやらない場合もあります。 ①人員点呼～健康観察 ②着替えについて ③あいさつ																					
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故(落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等) ☐ 疲労による事故(熱中症含む) ☐ 山の環境による事故(転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等) ☐ 人的要因で起こる事故(ふざけての事故等)																						

浜松市かな野外活動センター
かな周辺地図
沢登りコース地図

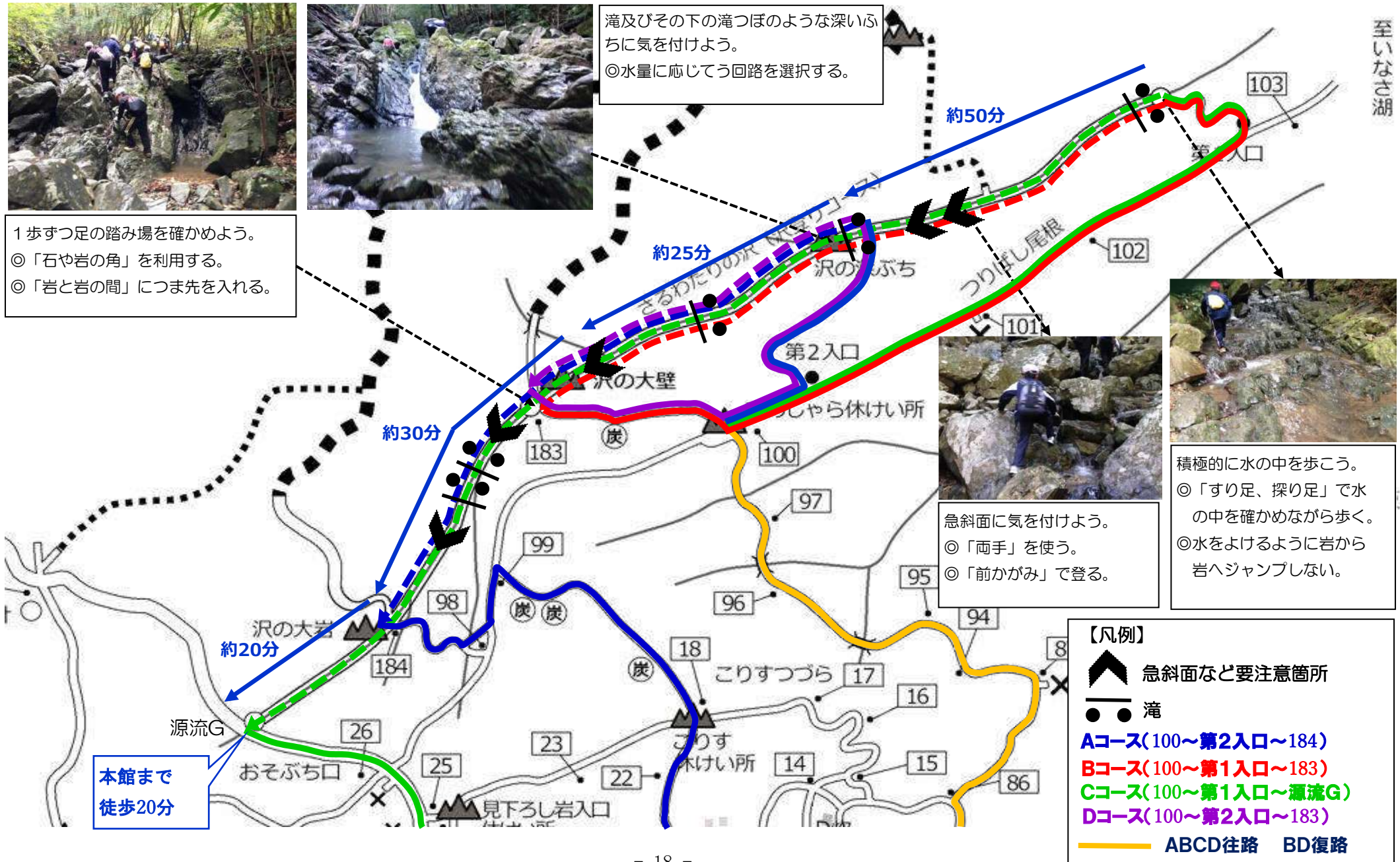


沢登りコース 危険箇所マップ



滝及びその下の滝つぼのような深いふちに気を付けよう。
◎水量に応じてう回路を選択する。

1 歩ずつ足の踏み場を確かめよう。
◎「石や岩の角」を利用する。
◎「岩と岩の間」につま先を入れる。



積極的に水の中を歩こう。
◎「すり足、探り足」で水の中を確かめながら歩く。
◎水をよけるように岩から岩へジャンプしない。



急斜面に気を付けよう。
◎「両手」を使う。
◎「前かがみ」で登る。

【凡例】

▲ 急斜面など要注意箇所

● 滝

Aコース(100～第2入口～184)

Bコース(100～第1入口～183)

Cコース(100～第1入口～源流G)

Dコース(100～第2入口～183)

— ABCD往路 BD復路

【沢登りを実施する指導者へ】

1 森林環境教育

本所は沢登りを通して「森林環境教育」に取り組んでいます。特に、沢登りコースの一部は国有林野内に位置し、水源かん養林として保安、整備されており、自然豊かな美しい森が広がっています。さらに上流部では、水源を確認することもできます。

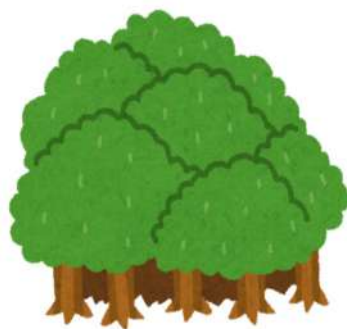
この価値ある教育資源を生かし、発達段階に応じた森林環境教育の場を、沢登りを通して提供します。

(1) ねらい（森林環境教育を通して）

- 子どもたちの「生きる力」を伸ばしたい。
- 「人と森林との関係」などについて実感をもって理解させたい。

(2) ねらいに迫るヒント…森林のもつ多面的な機能

- | | |
|------------|-----------------|
| ○ 木材生産 | ○ 国土の保全・水資源のかん養 |
| ○ 生活環境の保全 | ○ 教育・文化・保健 |
| ○ 生物多様性の保全 | ○ 地球環境の保全 |



<出典・参考資料>

- ・「森林環境教育の推進について」文部科学省ホームページ
- ・「今後の森林の新たな利用の方向-21世紀型森林文化と新たな社会の創造-（平成11年2月18日）」
中央森林審議会答申
- ・「森林環境教育の推進」林野庁ホームページ
- ・「森林環境教育プログラムガイド（パンフレット・平成17年3月発行）」

静岡県環境森林部自然ふれあいあい室

2 沢登りの約束

出発式に、所員が以下の約束を伝えます。指導者はしおりへ掲載したり伝達したりする事前指導をお願いします。

(1) 森林環境教育を意識して…

- ・生き物を観察します！
- ・沢の水の流れを観察します！

(2) 装備・持ち物について

- ・肌は露出しません！（長袖・長ズボン・軍手・ひも靴）
- ・荷物を背負い、両手は空けます！
- ・ヘルメットとライフジャケットは確実に装着します！

(3) 登り方について

- ・走ったり、ジャンプしたりしません！
- ・無理せず、戻らず、下らない！安全なルートで

3 列の配置と留意点、及び人員点呼

(1) 列の配置の例（■所員 ●指導者） ※無線を所持した所員が帯同します。

←先頭 ■ 集団1 ● 集団2 ● 集団3 ● ■（最後尾）

※配慮を要する参加者がいる場合などの対応や指導者の配置については、所員に相談し、帯同する所員と指導者とで、確実に共通理解をお願いします。

※「沢登りA・B・Cコース」の途中（沢の入口に向かう際の林道）で、列の間が空いて迷った場合は、確実に所員を待ち、確認をしてください。

(2) 人員点呼～健康観察のタイミング（最低3回）

- ①出発式
- ②沢登りゴール地点
- ③到着式

4 ライフジャケットとヘルメットの脱着時の指導者の動き

	指導者	参加者
1 出発前	①トイレを確実に済ませてください。 ②南広場に集合・整列してください。	
2 装着説明	①所員と最終打合せを行います。 ☐ 参加者の人数確認 ☐ ルートと人員点呼のタイミング ☐ 隊列 ☐ その他留意点 ②指導者自身がヘルメットとライフジャケットを装着してください。 ③終わり次第、参加者への装着支援に協力してください	①ライフジャケットを所員から受け取り、ハンガーを所員に返します。 ②ライフジャケットを装着した後、ヘルメットを受け取ります。 ※指導者はあごひも調整を支援してください。 ※ヘルメット持参であれば、10分以上時間を短縮できます！ ③軍手を忘れた参加者は、このタイミングで借りてください。
	 	ライフジャケットを受け取る動きは、当日所員が説明します。
3 返却説明	①ヘルメットの回収を支援してください。 ☐ 物干し竿にヘルメットをかけさせてください。 ☐ あごの留め具をはめてください。 ②ライフジャケットの回収を支援してください。 ☐ ライフジャケットは裏返しにし、ハンガーに掛けさせてください。 ☐ ハンガーに貼ってある水色のシール（矢印部分）が見えるように掛けさせてください。 ③すべて返却した参加者たちを、整列させ、人員点呼に備えてください。	①ヘルメットを返却します。 ②ライフジャケットを返却します。 ③借りた軍手を返却します。 ④集合・整列します。
		

沢登り 服装

ポイント：安全に活動するため、肌を露出しない！

- 1 頭：赤白帽子とヘルメット
※帽子は汗を吸収するため着用
※ヘルメットを持参する団体は帽子は自由
- 2 上半身：長袖・リブシャツ
- 3 手：軍手
※沢登り中はもちろん、往路も復路も着用する。
- 4 下半身：長ズボン
×ハーフパンツ、七分丈
- 5 足：靴下必ずはく
×短い靴下
靴（下表を参考に）
- 6 その他：水筒持参の場合
◎濡れても良いナップサックに水筒を入れて歩く。
○ひも付きの水筒を肩から下げて歩く。
×手で持って歩く。



種類	- 運動靴 - 普段はいている靴 	登山靴 	ウォーターシューズ 	- 上履き - 古靴 - 底がツルツルの靴 	- サンダル - ぞうり 
安全性	○	○	△	×	×
特徴	底が厚く動きやすい。慣れている。	底が厚く動きやすい。滑りにくい。	底、生地が薄いため痛く、破れる可能性有り。	滑りやすい。底がツルツルは絶対にだめ。	直接肌が出てしまうため、認められない。

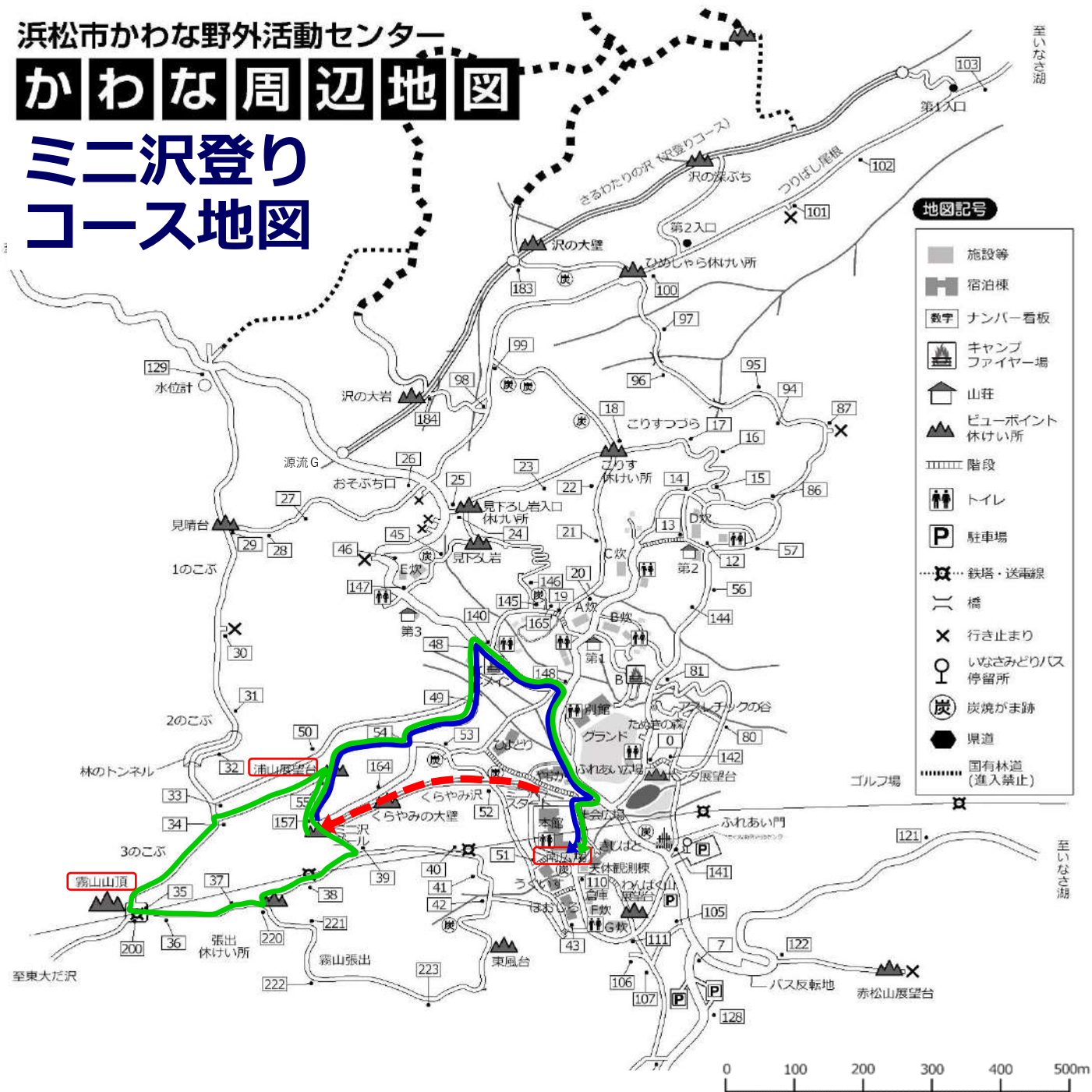
活動名	ミニ沢登り																			
概要と期待できる教育的効果	・ 沢の水の冷たさを感じながら、沢を安全に登り切ることで、達成感を味わったり、自信につながたりすることができる。 ・ 仲間と励まし合いながら登ることで、仲間意識を深めたり、協調性を育んだりすることができる。 ・ サワガニやホトケドジョウなどを観察することで、清らかな水に育まれる生き物のたくましさや素晴らしさを体感することができる。																			
諸条件	場 所 本館裏～浦山 所要時間 コース毎下記参照 時 期 全シーズン ※冬はお勧めしません センター所員の支援 有 ・ 無	対 象 園児～小学生低学年 人 数 制限なし 天 候 荒天不可・雨天相談 その他 資料をホームページよりダウンロード可																		
準備物	センターが貸し出す物 ☐ ヘルメット小 ×150 ☐ ヘルメット大 × 40 ☐ ライフジャケット小×200 ☐ ライフジャケット大× 90	団体（個人）が準備する物 ☐ 救急用品 ☐ 登山装備（防寒具等） （ ☐ 水筒を持っていく場合…濡れ てもよいナップサックなど） ☐ ヘルメット（持参を推奨） ※P21参照																		
活動内容（手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20分</td> <td> 事前にトイレを済ませておく 装着説明（所員主導） ①荷物の確認～着替えの説明 ②ライフジャケット（ヘルメット）の受け取り ※準備説明の裏側で、指導者と所員の最終打ち合わせ ☐ コースの確認 ☐ 特別対応者の有無 ☐ 人員点呼～健康観察のタイミングと場所 など 出発式（所員主導） </td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td> ①人員点呼～健康観察 ②沢登りの約束（服装と装備の確認） </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <tr> <td>コース1</td> <td>ミニ沢登り～浦山展望台～霧山山頂 約2時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※所員の帯同は、沢登りゴール付近までとなります。</td> </tr> <tr> <td>コース2</td> <td>ミニ沢登り～浦山展望台 約1時間30分</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td> 返却説明（所員主導）※指導者のサポートが必要です。（P20参照） ☐ ヘルメット返却～ライフジャケット返却 </td> </tr> <tr> <td>5分</td> <td> 到着式（所員主導） ①人員点呼～健康観察 ②着替えについて ③あいさつ </td> </tr> </tbody> </table>		所要時間	内 容	20分	事前にトイレを済ませておく 装着説明（所員主導） ①荷物の確認～着替えの説明 ②ライフジャケット（ヘルメット）の受け取り ※準備説明の裏側で、指導者と所員の最終打ち合わせ ☐ コースの確認 ☐ 特別対応者の有無 ☐ 人員点呼～健康観察のタイミングと場所 など 出発式（所員主導）	10分	①人員点呼～健康観察 ②沢登りの約束（服装と装備の確認）	<table border="1"> <tr> <td>コース1</td> <td>ミニ沢登り～浦山展望台～霧山山頂 約2時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※所員の帯同は、沢登りゴール付近までとなります。</td> </tr> <tr> <td>コース2</td> <td>ミニ沢登り～浦山展望台 約1時間30分</td> </tr> </table>		コース1	ミニ沢登り～浦山展望台～霧山山頂 約2時間	※所員の帯同は、沢登りゴール付近までとなります。		コース2	ミニ沢登り～浦山展望台 約1時間30分	10分	返却説明（所員主導）※指導者のサポートが必要です。（P20参照） ☐ ヘルメット返却～ライフジャケット返却	5分	到着式（所員主導） ①人員点呼～健康観察 ②着替えについて ③あいさつ
所要時間	内 容																			
20分	事前にトイレを済ませておく 装着説明（所員主導） ①荷物の確認～着替えの説明 ②ライフジャケット（ヘルメット）の受け取り ※準備説明の裏側で、指導者と所員の最終打ち合わせ ☐ コースの確認 ☐ 特別対応者の有無 ☐ 人員点呼～健康観察のタイミングと場所 など 出発式（所員主導）																			
10分	①人員点呼～健康観察 ②沢登りの約束（服装と装備の確認）																			
<table border="1"> <tr> <td>コース1</td> <td>ミニ沢登り～浦山展望台～霧山山頂 約2時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※所員の帯同は、沢登りゴール付近までとなります。</td> </tr> <tr> <td>コース2</td> <td>ミニ沢登り～浦山展望台 約1時間30分</td> </tr> </table>		コース1	ミニ沢登り～浦山展望台～霧山山頂 約2時間	※所員の帯同は、沢登りゴール付近までとなります。		コース2	ミニ沢登り～浦山展望台 約1時間30分													
コース1	ミニ沢登り～浦山展望台～霧山山頂 約2時間																			
※所員の帯同は、沢登りゴール付近までとなります。																				
コース2	ミニ沢登り～浦山展望台 約1時間30分																			
10分	返却説明（所員主導）※指導者のサポートが必要です。（P20参照） ☐ ヘルメット返却～ライフジャケット返却																			
5分	到着式（所員主導） ①人員点呼～健康観察 ②着替えについて ③あいさつ																			
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐ 疲労による事故（熱中症含む） ☐ 山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐ 人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）																			



浜松市かなわ野外活動センター

かなわ周辺地図

ミニ沢登り コース地図



ロングコース (コース1)

ミニ沢登り～157番～浦山展望台～霧山山頂～浦山展望台～メインファイヤ場)

ショートコース (コース2)

ミニ沢登り～157番～浦山展望台～メインファイヤ場)

活動名		冒険トレッキング				
概要と期待できる教育的効果		・ 自然に親しみながら、グループの仲間と「地図」と「写真」をたよりに全行程を歩くことで、互いに励まし合ったり達成感を味わったりして仲間意識を深めることができる。 ・ グループの仲間と話し合って順路を決定したり、ポイントの課題を解決したりすることで、グループの協調性を高めたり、コミュニケーション力をつけたりすることが期待できる。				
諸条件	場 所	スタート、ゴール…本館	対 象	小学生以上		
	所要時間	約4時間(弁当有・CP有)	人 数	制限なし		
	時 期	全シーズン	天 候	荒天不可		
	センター所員の支援 有 ・ (無)		その他	・資料をホームページよりダウンロード可 ・本部とチェックポイントが必要(P25参照)		
準備物	センターが貸し出す物		団体(個人)が準備する物			
	☐ 無線機(親機)×1台 ☐ 無線機(子機)×14台 ☐ 指導者用マグネット&マップ×1 ※各上限		個人 ☐ 登山装備(雨具・防寒具) ☐ 水筒 団体 ☐ 地図(ラミネート処理を推奨) ☐ 救急用品 ☐ グループ名簿 ☐ 緊急連絡簿 等			
活動内容(手順)	所要時間		内 容			
	10分	始めの会(P.2参照)				
	約4時間	☐ 時間差(3~5分間)をつけて出発 (弁当有 ☐ 各グループの周り方確認(時計回り・反時計回り) ・CP有) ☐ 各ポイントで人員点呼~健康観察				
	5分	到着式 ①人員点呼~健康観察 ②各団体に応じた事後指導				
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故(落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等) ☐ 疲労による事故(熱中症含む) ☐ 山の環境による事故(転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等) ☐ 人的要因で起こる事故(ふざけての事故等)					

冒険トレッキングについて

1 やり方の説明（例）

（１）地図の確認

①「地図を持ち、決められたコースを歩きましょう。」

②「地図の裏側には写真があります。」

写真を手がかりにしましょう。」

「地図と写真の両方を利用すると、大きく迷うことがありません。」

※写真は、季節によって景色や樹木の様子が変わるので注意してください。

③「地図を見るときは、グループ全員で丸くなって相談しましょう。」

（２）その他

①「自然や景色を楽しみながら、グループで協力して歩きましょう。」

②弁当無 …「およそ３時間かかります。」

弁当有 …「およそ３時間半かかります。」

弁当有・チェックポイント有…「およそ４時間かかります。」



2 チェックポイントについて

※団体でどこに設置するかを検討しておきましょう。

（１）コース内に課題やクイズ等のチェックポイントを設けると、より一層楽しく活動できます。

（２）指導者の人数により、チェックポイントや課題の数を変えることが可能です。

（３）団体独自の問題を工夫することができます。

（４）チェックポイント例と課題例

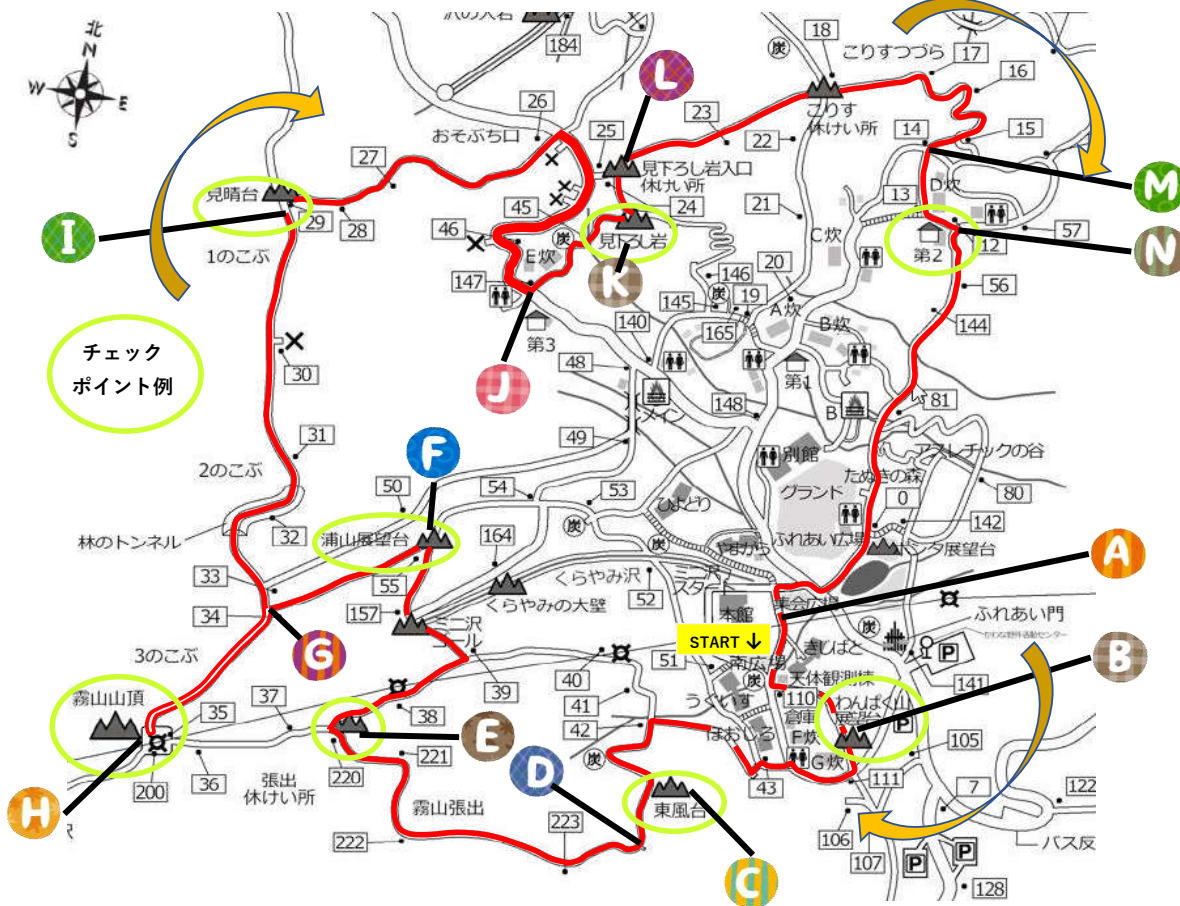
チェックポイント（例）	課 題 （例）
わんぱく山展望台	探せ！展望台から見える〇〇なもの。 ※例…赤い屋根の建物、回転しているもの 等
東風台	目の前に広がる景色のうち、正面に見える湖は何という名前でしょう。
浦山展望台	展望台から何本の風車が見えるでしょう。
霧山山頂	やまびこに挑戦してみよう。北側と南側のどちらでもできるよ。 （「ヤッホー」ではなく「ヤッホ！」と叫ぶのがコツ）
見晴台	時刻と太陽の位置をヒントにして、見晴台から見た南の方向はどこですか。 （ヒント：太陽は１時間に 15° 西に動きます）
見下ろし岩	見下ろし岩から見える風車の数はいくつ？
第２キャンプ場	D 炊飯棟にかまどはいくつあるでしょう。
フリー問題①	宝探し：チェックポイントの指導者が示した自然物と同じ物を制限時間内に見つけよう。
フリー問題②	今の気持ちを一言で表すと、何になりますか。しおりに書き留めましょう。

※下見を行うと見えてくる検討ポイント

○チェックポイントは上記以外も考えられます。特にE炊飯棟は水道やトイレ施設があるため、水分補給やトイレ休憩を行うのに適しています。

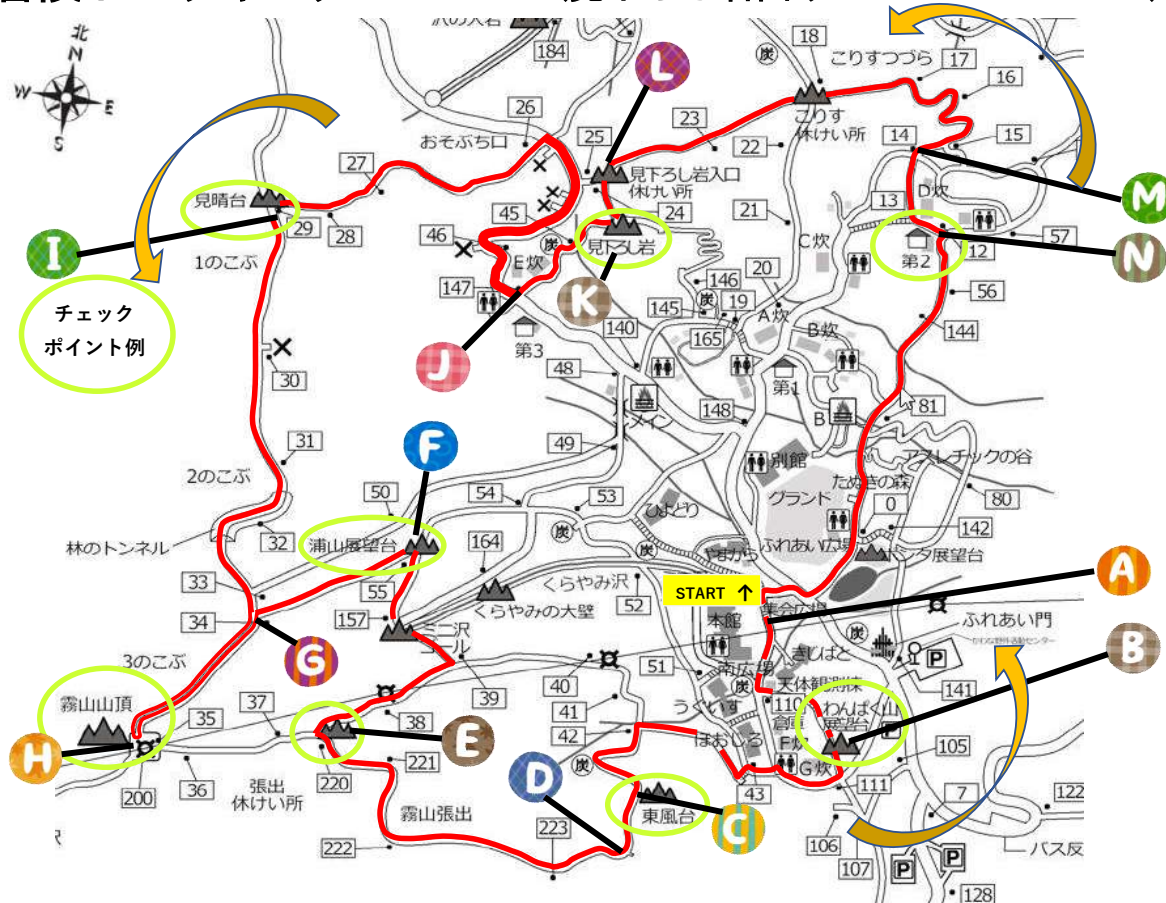
※ 下見の際、チェックポイントの場所と数を決めましょう。

冒険トレッキング Aコース(東風台回り A→B→C→…→N→A)



A～Nのポイントには、写真のような黄色い看板があるよ。目印にしよう。

冒険トレッキング Bコース(見下ろし岩回り A→N→M→…→B→A)



A～Nのポイントには、写真のような黄色い看板があるよ。目印にしよう。



冒険トレッキングA 時計回りコース



冒険トレッキングB 反時計回りコース





活動名	ウォークラリー																			
概要と期待できる教育的効果	- グループで「コマ地図」をたよりにコースを歩き、得点やタイムを競い合うことで、グループの協調性を高めたり、コミュニケーション力をつけたりすることができる。 - 自然を感じながら全行程を歩くことで、自然に親しむとともに、互いに励まし合ったり達成感を味わったりして仲間意識を深めることができる。																			
諸条件	場 所	スタート、ゴール…適宜	対 象	小学生以上																
	所要時間	コース毎下記参照	人 数	各グループ4～6人程度																
	時 期	全シーズン	天 候	荒天不可																
	センター所員の支援	有 ・ 無	その他	- 資料をホームページよりダウンロード可 - 本部とチェックポイントが必要（P.29参照）																
準備物	センターが貸し出す物 ☐ 無線機（親機）×1台 ☐ 無線機（子機）×14台 ☐ 指導者用マフネット&マップ×1 ※絡上限		団体（個人）が準備する物 個人 ☐ 登山装備（雨具・防寒具） ☐ 水筒 団体 ☐ 地図（ラミネート処理を推奨） ☐ 救急用品 ☐ グループ名簿 ☐ 緊急連絡簿 等																	
活動内容（手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10分</td> <td>始めの会（P.2参照）</td> </tr> <tr> <td>1.5時間</td> <td> (1) 北コース…見下ろし岩周遊 A：時計回り B：反時計回り (2) 南コース…東風台周遊 A：時計回り B：反時計回り </td> </tr> <tr> <td>3時間（2～2.5時間）</td> <td> (1) 霧山コース A：時計回り B：反時計回り (2) 霧山コース（ショート） A：時計回り B：反時計回り </td> </tr> <tr> <td>5時間</td> <td> (1) いなさ湖コース A：時計回り B：反時計回り (2) いなさ湖コース（ショート） A：時計回り B：反時計回り (3) 滝沢展望台コース A：時計回り（B：反時計回り） </td> </tr> <tr> <td>6時間</td> <td>(1) 滝沢コース A：時計回り</td> </tr> <tr> <td>7時間</td> <td>(1) 霧山・いなさ湖コース A：時計回り B：反時計回り</td> </tr> <tr> <td>5分</td> <td>終わりの会（P.2参照）</td> </tr> </tbody> </table>				所要時間	内 容	10分	始めの会（P.2参照）	1.5時間	(1) 北コース…見下ろし岩周遊 A：時計回り B：反時計回り (2) 南コース…東風台周遊 A：時計回り B：反時計回り	3時間（2～2.5時間）	(1) 霧山コース A：時計回り B：反時計回り (2) 霧山コース（ショート） A：時計回り B：反時計回り	5時間	(1) いなさ湖コース A：時計回り B：反時計回り (2) いなさ湖コース（ショート） A：時計回り B：反時計回り (3) 滝沢展望台コース A：時計回り（B：反時計回り）	6時間	(1) 滝沢コース A：時計回り	7時間	(1) 霧山・いなさ湖コース A：時計回り B：反時計回り	5分	終わりの会（P.2参照）
所要時間	内 容																			
10分	始めの会（P.2参照）																			
1.5時間	(1) 北コース…見下ろし岩周遊 A：時計回り B：反時計回り (2) 南コース…東風台周遊 A：時計回り B：反時計回り																			
3時間（2～2.5時間）	(1) 霧山コース A：時計回り B：反時計回り (2) 霧山コース（ショート） A：時計回り B：反時計回り																			
5時間	(1) いなさ湖コース A：時計回り B：反時計回り (2) いなさ湖コース（ショート） A：時計回り B：反時計回り (3) 滝沢展望台コース A：時計回り（B：反時計回り）																			
6時間	(1) 滝沢コース A：時計回り																			
7時間	(1) 霧山・いなさ湖コース A：時計回り B：反時計回り																			
5分	終わりの会（P.2参照）																			
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐ 疲労による事故（熱中症含む） ☐ 山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐ 人的要因で起こる事故（車道に広がっての接触事故、ふざけての事故等）																			

ウォークラリーについて

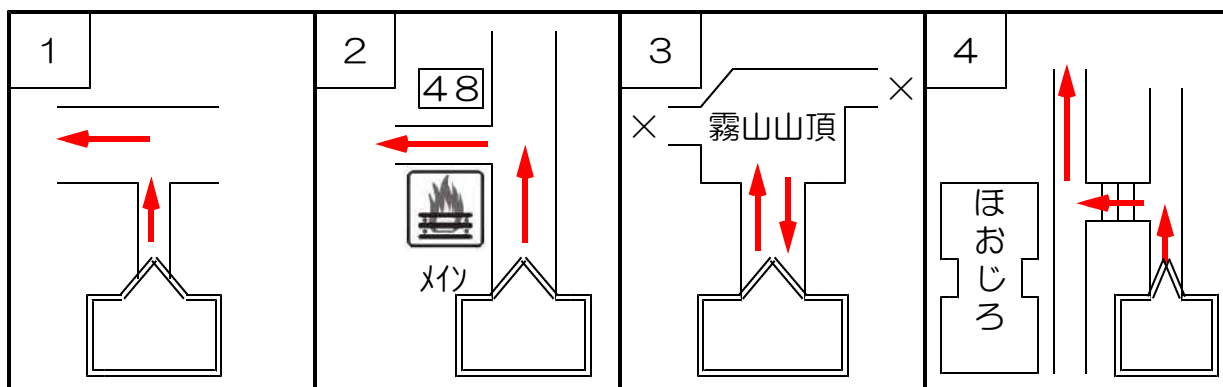
ここがオススメ！

- ①地図が読めなくても、「コマ地図」で未知のコースに挑戦できます。
- ②ゴールする時刻を目標設定することで、歩く速さを調節させることができます。

1 やり方の説明（例）

（1）コマ地図の確認

- 「コマ地図をもとに順路を探しながら歩き、最後はゴールに戻ります。」
- 「コマ地図を見るときは、グループ全員で丸くなって相談しましょう。」
- 「コマ地図は地図の下を“おへそにくっつけて”見ましょう。」
- コマ地図の見方
 - ・下図の□印が自分の立ち位置です。
 - ・原則、図の上方が前方を指し、矢印が進行方向を指します。
 - ・図の中には目印になる記号や番号看板、メッセージ等が示されています。



「突き当たり、
広い道を左折」

「メソファヤ-場の先
看板48で左折」

「霧山山頂に行き、
来た道に戻る」

「左折し階段を進ん
で、右折」

※コマ地図内の記号表記は各地図に記載されています。

（2）時間について

- ルール A「最短時間を競います。」
- ルール B「ゴール目標時刻の差の少なさで競います。」
- ※活動時間は団体の人数や実施方法グループの出発間隔の時間で異なります。

始めの会＋出発間隔時間＋歩行時間（チェックポイント外含）＋終わりの会＝活動時間

- 「スタートは、グループごとに〔3・5・他〕分間の時間差をつけます。」

（3）行動について

- 「自然や景色を楽しみながら、グループで協力して歩きましょう。」

2 チェックポイントについて

（1）チェックポイントを設定する場合

「コース上にポイントを設定しています。」

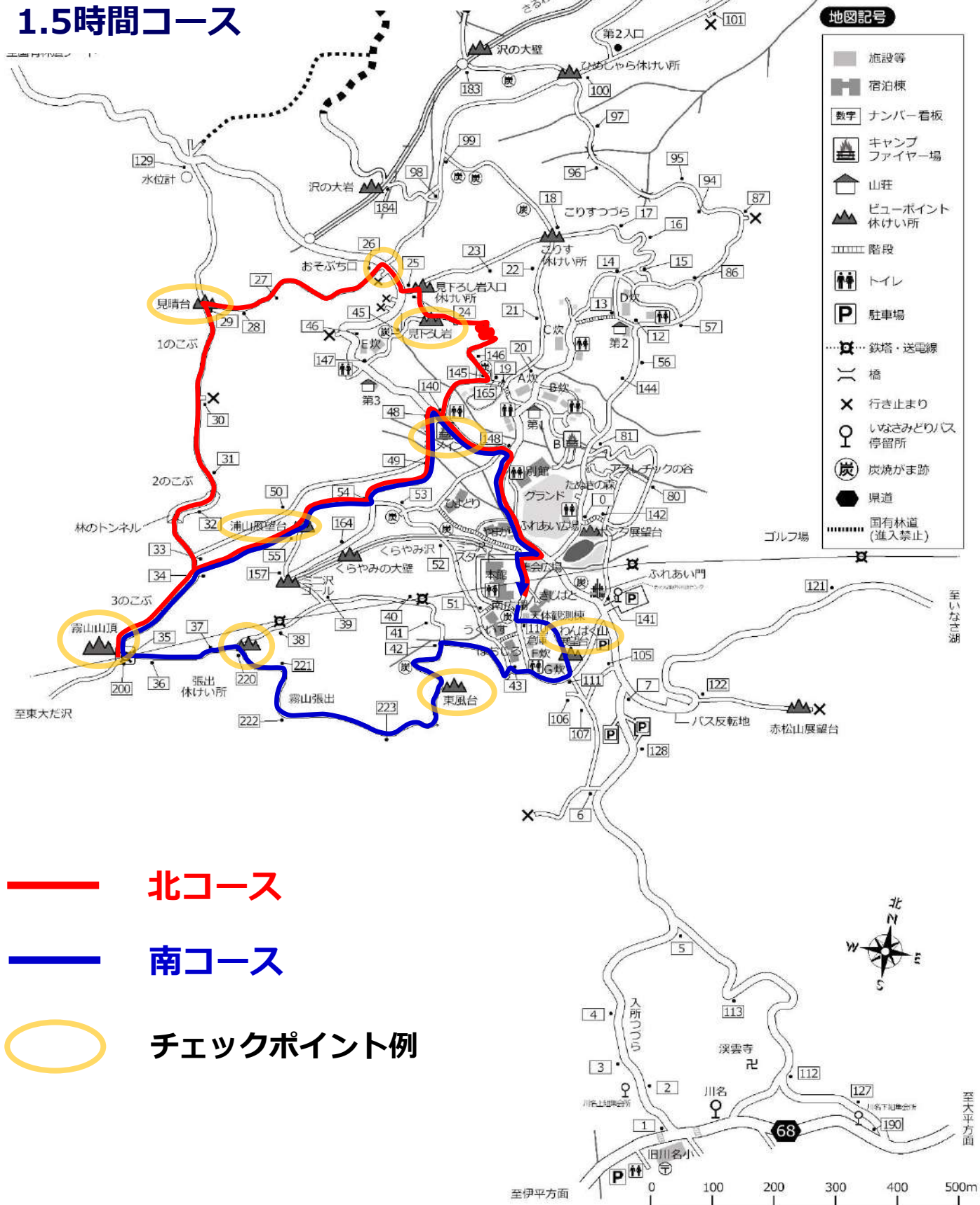
各ポイントに問題があるので、グループのみんなで挑戦しましょう。」

- （2）コース内に課題やクイズ等のチェックポイントを設けると、より一層楽しく活動できます。（ホームページ上に Excel の問題シートがあります。）
 - （3）指導者の人数により、チェックポイントや課題の数を変えることが可能です。
 - （4）団体独自の問題を工夫することができます。
- ※下見の際、団体で設置するかしないかを検討したり、箇所や数を決めましょう。

浜松市かわな野外活動センター

かわな周辺地図

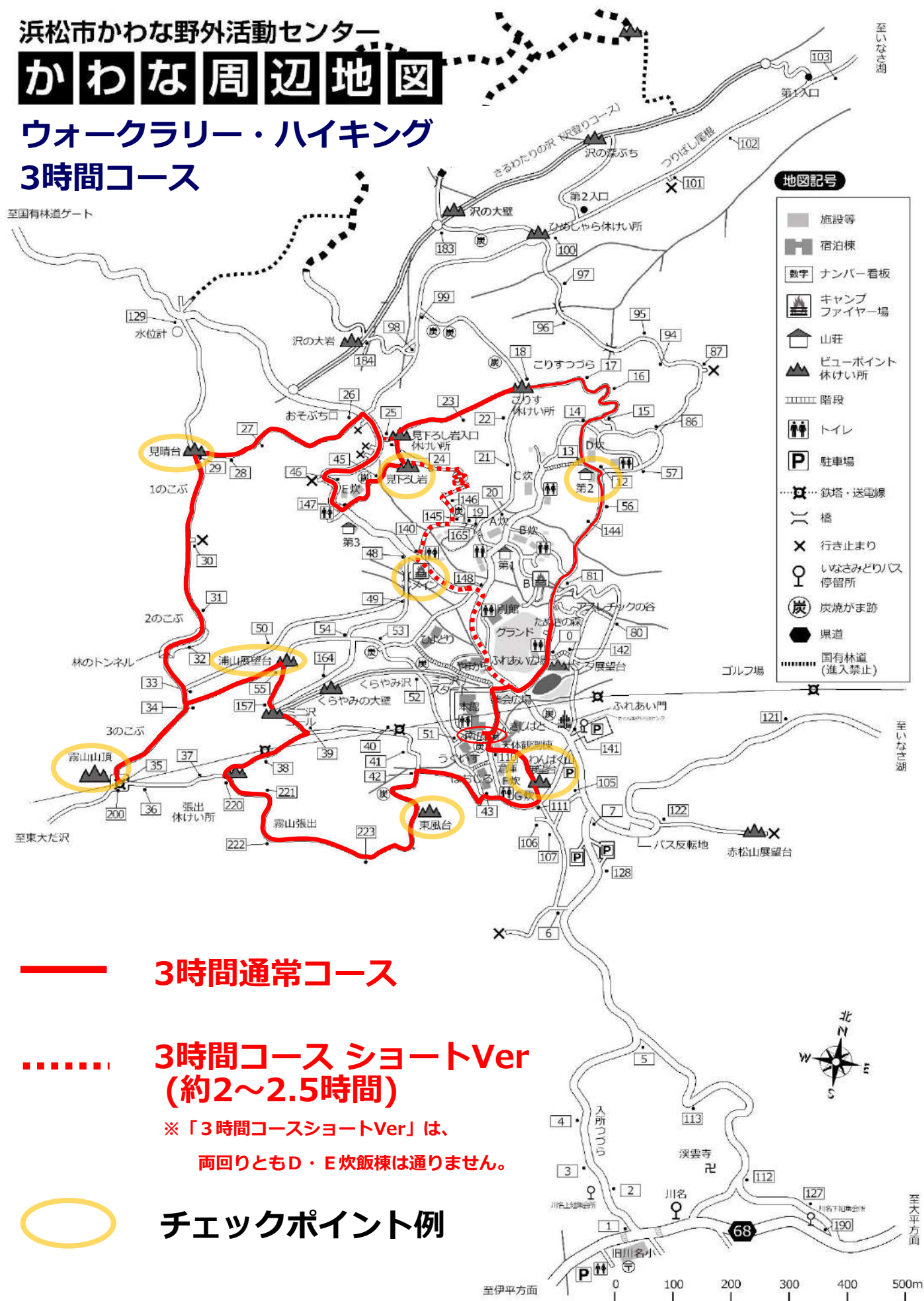
ウォークラリー・ハイキング 1.5時間コース



かわな周辺地図

ウォークラリー・ハイキング 3時間コース

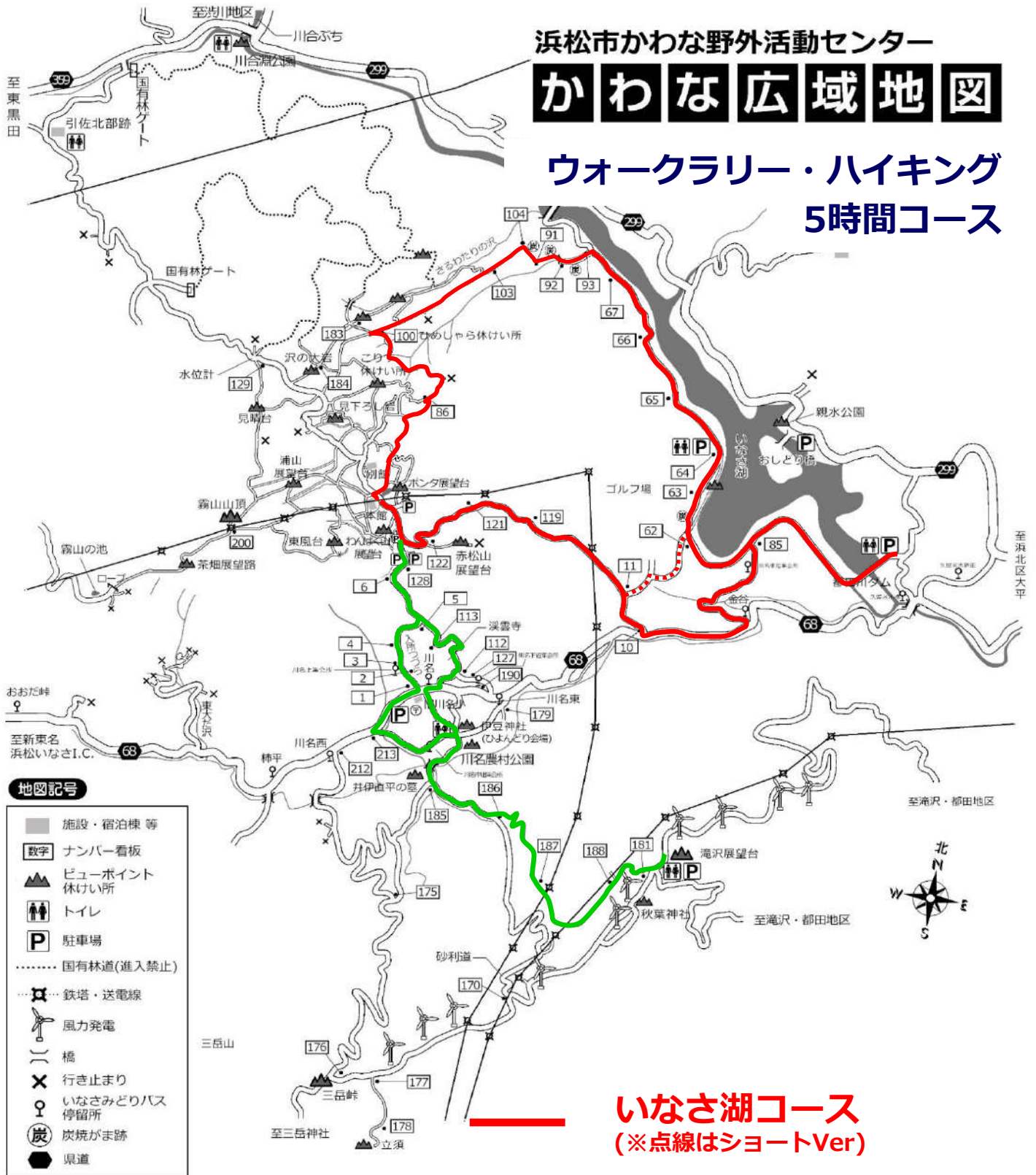
至国有林道ゲート



浜松市かわな野外活動センター

かわな広域地図

ウォークラリー・ハイキング
5時間コース



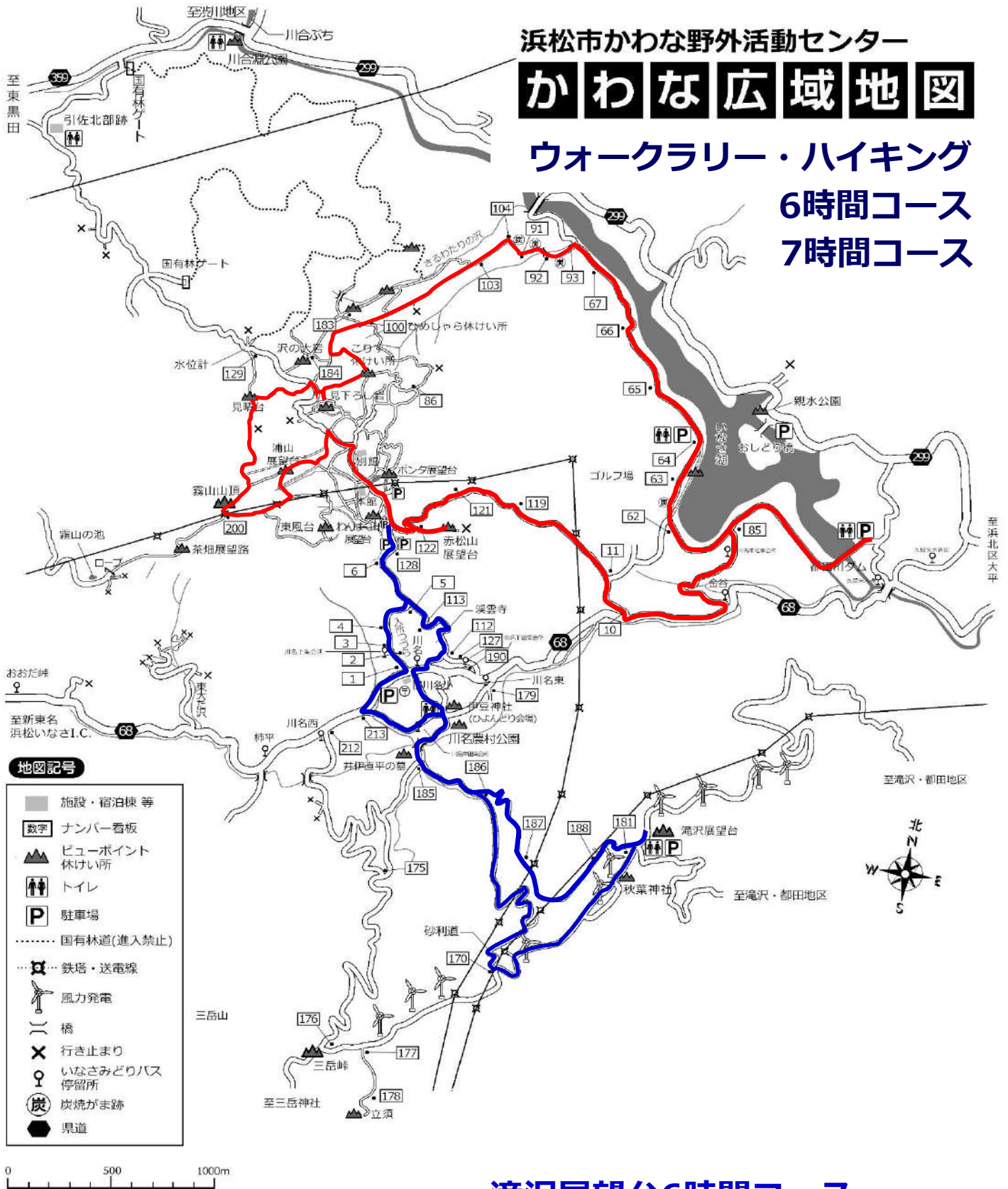
浜松市かわな野外活動センター

かわな広域地図

ウォークラリー・ハイキング

6時間コース

7時間コース



滝沢展望台6時間コース

霧山・いなさ湖7時間コース

活動名	ポイントハイク			
概要と期待できる教育的効果	- グループで地図をたよりに、看板を探したり、問題を解いたりすることにより、グループの協調性を高めたり、コミュニケーション力をつけたりすることができる。 - 自然を感じながら選んだ行程を歩くことで、自然に親しむとともに、互いに励まし合ったり達成感を味わったりして仲間意識を深めることができる。			
諸条件	場 所	スタート、ゴール…適宜	対 象	小学生高学年以上
	所要時間	約3時間以内	人 数	各グループ4～6人程度
	時 期	全シーズン	天 候	荒天不可
	センター所員の支援	有 ・ (無)	その他	・資料をホームページよりダウンロード可 ・本部（と合格チェックポイント）が必要
準備物	センターが貸し出す物		団体（個人）が準備する物	
	☐無線機（親機）×1台 ☐無線機（子機）×14台 ☐ポイント13用のこぎりセット ☐ポイント19用楽譜セット ☐指導者用マフネット&マップ×1 ※絡上限		個人☐登山装備（雨具・防寒具） ☐水筒 ☐筆記用具 ☐探検バッグ（各グループごと） 団体☐地図（書き込み可能地図推奨） ☐救急用品 ☐グループ名簿 ☐緊急連絡簿 等	
活動内容（手順）	所要時間：内 容			
	10分	始めの会（P.2参照）		
	1時間～	☐ 作戦タイム（グループごとにルート確認）		
	2時間半	☐ スタート方法…一斉またはグループごと		
		☐ 各ポイントで人員点呼～健康観察		
	5分	終わりの会（P.2参照）		
想定されるリスク	☐天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐疲労による事故（熱中症含む） ☐山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐人的要因で起こる事故（車道に広がっての接触事故、ふざけての事故等）			

ポイントハイクについて

ここがオススメ！

- ①一斉にスタートができます。
- ②ポイントを見つけ、五感を働かせて問題を解いていきます。進むコースをグループごと選び、歩き、見つけ、考え、解いていく楽しみがあります。
- ③団体の希望する時間に合わせ、歩くコースやポイント数を選べます。

1 事前の準備

(1) 下見を通して、以下を確認します。

確認項目	決定事項
①指導者の人数	本部（スタート・ゴール）×（ ）人 ポイントに立つ指導者×（ ）人
②グループの人数構成	（ ）人 ※1グループ4～6人が適当
③活動時間	（ ）時（ ）分～（ ）時（ ）分 （ ）分間
④ポイント（活動範囲）	・指導者の合格チェックポイント … 7 13 19 ※センター設置ポイントすべてを使わなくてもOKです。 団体オリジナルポイントを追加してもOKです。 例…「景色をながめながら俳句を作ろう。」 「各種ゲーム（輪投げ、人間並べ替えなど）」 「宝探しをしよう。」 ・眺めの良いポイント … 5 20
⑤配点	・通過した得点 ・問題に正解した得点 ・ゴール到着時間の得点

- (2) 各グループに配付する地図と問題用紙を作成します。
- (3) 実施する当日、追加するポイントがある場合、設置します。
- (4) チェックポイント13用のこぎりセットやチェックポイント19用の楽譜セットの貸出を希望する団体は、事前打ち合わせまたは受付時まで申し込んでください。

2 やり方の説明（例）

- (1) 「グループごとに地図はありますか？」→問題用紙・筆記用具の確認
- (2) 問題について…各ポイントに設置してある問題の例を見せる。
「時間内に、できるだけ多くポイントを通り、問題を解きましょう。」
「必ず通らなければならないポイントは（ ）番です。」
「問題によって、答えが1つでないものもあります。
答えを限定せず、グループのみんなが感じ取ったものを大切にしましょう。」
- (3) 「終了時刻は（ ）時（ ）分です。」
「ゴール場所は（ ）です。」
- (4) 「得点、順位の発表は（ ）で行います。お楽しみに！」

ポイントハイク地図



(この看板をみつけてね！)

ポイントハイク（解答）

◎全問２６題。どこから始めてもいいよ。
◎１問２０点。◇印は３０点。☆印は５０点！めざせ高得点！



場所(標識番号)	問 題	得点	こたえ
☆⑤わんぱく山展望台	正面の山の中腹に観音山少年自然の家の白い建物が見えます。この建物の一番近い方位はどれでしょう。①東 ②南 ③西	５０	
☆⑳見下ろし岩	正面を見ると大型風力発電機が見えます。浜松市北区引佐町から滝沢町にかけての山頂に全部で何基作られました。①８基 ②１０基 ③１２基	５０	
◇⑬第１山荘のうら	丸太を切ろう！【合格したらサインをもらおう】	３０	合格サイン
◇⑱メインファイヤー場	楽譜を演奏してみんなで歌おう！【合格したらサインをもらおう】	３０	合格サイン
①ふれあい広場	リスはマツの実をかじって写真のようなものを作ります。ある食べ物に形が似ていることから何と呼ばれていますか。①エビフライ ②エビイモ ③ハムフライ	２０	
②ふれあい広場外トイレ小屋付近	クロモジの葉のにおいをかいでみよう。どんなにおいがありましたか。（冬季は実施不可）①カレーのようなにおい ②味噌（みそ）のようなにおい③さわやかな甘いにおい	２０	
③岩石園付近	動物の殻や骨などの成分が水底に積もってできます。セメントの主な原料として使われます（かつて引佐町伊谷にセメント工場がありました）。この岩石は、どれでしょう。（岩石の説明板を見ながら探してみよう）①粘板岩 ②凝灰岩 ③石灰岩	２０	
④ふれあい門	この門に丸太は何本使われているでしょう。①５３本 ②５４本 ③５５本	２０	
⑥Ｇ炊飯棟付近	ヒノキの葉の裏にどんなアルファベット文字の模様がみえるでしょう。①X ②Y ③Z	２０	
⑦第２キャンプ場付近	この巨木の高さは何メートルくらいでしょう。（誤差３mまでは合格です）	２０	
⑧ランド	これは何の木のツルでしょう。①フジ ②ブドウ ③ヤマイモ	２０	
⑨たぬきの森	たぬきの足跡はどれでしょう。	２０	
⑩別館前	ドングリができるこの木の名前は何というでしょう。①カエデ ②クヌギ ③サクラ	２０	
⑪Ｃ炊飯棟～Ｄ炊飯棟の階段 付近	竹が１日（２４時間）に伸びた長さの最長記録はどれでしょう。①約１cm ②約１０cm ③約１００cm	２０	
⑫本館前	この木の名前の由来は、果実の形が人間の体のある部分と似ていることからきています。この木の名前は、何というでしょう。①クチナシ ②コブシ ③ハナйкаダ	２０	

場所(標識番号)	問 題	得点	こたえ
⑭第三キャンプ場付近のシイタケ栽培場	シイタケ栽培の原木に適した木はどれでしょう。①マツ ②コナラ ③ヒノキ	２０	
⑮モリアオガエル産卵場	この網や木の枝に卵を産みつけるモリアオガエルはどれでしょう。３つの写真から選んでください。	２０	
⑯南広場	おさつや半紙の材料に使われる木です。３つに枝分かれして伸びるのが名前の由来となっています。この木の名前は、どれでしょう。①サンショウ ②ミツバツツジ ③ミツマタ	２０	
⑰収穫の森	この木の果実は鋭い針のようないがておおわれています。木の名前は、どれでしょう。①モモ ②クリ ③カキ	２０	
⑱メインファイヤー場（４８下）	メインファイヤー場にあるいすの数はいくつでしょう。（神様のいすも含む）①１２２ ②１２５ ③１２８	２０	
㉑Ｅ炊飯棟の前	この木（アベマキ）は、樹皮を押してみると弾力があることから「○○○クヌギ」の別名があります。○○○に当てはまるものはどれでしょう。（樹皮を触ってみよう）①カラス ②フリン ③コルク	２０	
㉒メインファイヤー場のトイレの前	ウナギ料理に使われるサンショウは、枝からとげが出ています。このとげの出方はどちらでしょう。①互生（１本ずつ交互に出ている）②対生（２本ずつ対になって出ている）	２０	
㉓見下ろし岩への道（４５）付近	ここは何の跡でしょう。①炭焼きがまの跡 ②昔の人の倉庫の跡 ③動物のすみの跡	２０	
②４やまがら～ひよどりの階段	ここから宿泊棟「ひよどり」までの階段は何段あるでしょう。①１４５段 ②１４７段 ③１５０段	２０	
②５ＦＧ炊飯棟付近の棚田	初夏の夜になると発光しながら飛ぶ昆虫が見られます。何という名前でしょう。①ホタル ②トンボ ③チョウ	２０	
②６天体観測棟	この天体観測棟の中にある一番大きな天体望遠鏡の筒の部分の直径はどれだけでしょう。①８cm ②４０cm ③８０cm	２０	
合計点		/600点	
班番号・班名			

ポイントハイク（解答）

◎全問２６題。どこから始めてもいいよ。
◎１問２０点。◇印は３０点。☆印は５０点！めざせ高得点！



場所(標識番号)	問 題	得点	こたえ
☆⑤わんぱく山展望台		５０	
☆⑳見下ろし岩		５０	
◇⑬第１山荘のうら		３０	合格サイン
◇⑱メインファイヤー場		３０	合格サイン
①ふれあい広場		２０	
②ふれあい広場外トイレ小屋付近		２０	
③岩石園付近		２０	
④ふれあい門		２０	
⑥Ｇ炊飯棟付近		２０	
⑦第２キャンプ場付近		２０	
⑧ランド		２０	
⑨たぬきの森		２０	
⑩別館前		２０	
⑪Ｃ炊飯棟～Ｄ炊飯棟の階段 付近		２０	
⑫本館前		２０	

場所(標識番号)	問 題	得点	こたえ
⑭第三キャンプ場付近のシイタケ栽培場		２０	
⑮モリアオガエル産卵場		２０	
⑯南広場		２０	
⑰収穫の森		２０	
⑱メインファイヤー場（４８下）		２０	
㉑Ｅ炊飯棟の前		２０	
㉒メインファイヤー場のトイレの前		２０	
㉓見下ろし岩への道（４５）付近		２０	
②４やまがら～ひよどりの階段		２０	
②５ＦＧ炊飯棟付近の棚田		２０	
②６天体観測棟		２０	
合計点		/600点	
班番号・班名			

活動名	フォトロゲイニング			
概要と期待できる教育的効果	「地図」と「ポーズシート」を用いてグループで作戦を立て、その作戦にしたがって活動することで、グループの協調性を高めたり、コミュニケーション力をつけたりすることができる。 - 楽しいポーズで撮影し、互いに声を掛け合ったり撮影した写真を見たりすることで、達成感を味わい、仲間意識を深めることができる。			
諸条件	場 所	スタート、ゴール…適宜	対 象	小学生高学年以上
	所要時間	60～180分間	人 数	任意
	時 期	全シーズン	天 候	雨天不可
	センター所員の支援 有 ・ (無)		その他	資料をホームページよりダウンロード可
準備物	センターが貸し出す物 □無線機（親機）×1台 □無線機（子機）×14台 □指導者用マッ ネット&マップ ×1 ※各上限		団体（個人）が準備する物 個人□登山装備（雨具・防寒具） □水筒 団体□地図（ラミネート処理を推奨） □ポーズシート □デジタルカメラ（グループ分） □救急用品 □グループ名簿 □緊急連絡簿 等	
活動内容（手順）	所要時間： 内 容			
	10分 始めの会（P2参照）			
	60～ 180分 □スタート方法…グループごと □指導者の立っているポイントごと人員点呼～健康観察			
	5分 終わりの会（P2参照）			
	事後 採点			
想定されるリスク	□天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） □疲労による事故（熱中症含む） □山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） □人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）			

フォトロゲイニングについて

フォトロゲイニングとは？

- ☆「地図」をもとに、時間内にポイントを回って得点を集める活動です。
- ☆ポイントに到達した記録として、「ポーズシート」と同じ風景、同じポーズをみんなで撮影する楽しさがあります。
- ※各グループに1台デジタルカメラが必要です。



ここがオススメ！

- ①一斉にスタートできます。
- ②得点や距離、標高などを考慮して、自分たちでコースを決める楽しみがあります。
- ③場所によって得点が異なり、難易度が高い場所ほど高得点になっているため、作戦タイムを設けてコースを考える楽しみがあります。

1 事前の準備（例）

(1) 下見を通して、以下を確認します。

確認項目	決定事項
①指導者の人数	本部（スタート・ゴール）×（ ）人 ポイントに立つ指導者×（ ）人
②グループ数と人数	（ ）人×（ ）グループ
③カメラの台数	（ ）グループ＝デジタルカメラ（ ）台 ※バッテリーチェックも忘れずに！
④活動時間	（ ）時（ ）分～（ ）時（ ）分 作戦時間…（ ）分間 ※5～10分間が適当 活動時間…（ ）分間 ※60～180分間の中から選択 ※180分間を超えると、全ポイントを回ることができるので、差が出なくなります。

- (2) 「地図」と「ポーズシート」を、グループ数分ラミネートで処理しておきます。
- (3) 事前にルールの説明をし、各グループで作戦を立て、歩くルートを地図に記入させておきましょう。
※各グループから歩くルートが記入された地図を事前に回収・コピーし、各班の予定を把握しておくこと、より安全な活動につながります。

2 やり方の説明（例）

- (1) 「スタートは（ ）、ゴールは（ ）です。」
- (2) 「スタート時刻は（ ）：（ ）。ゴール時刻は（ ）：（ ）です。
決められた時刻より
 - ①早くゴールすると、15分より前で1分につき（ ）点マイナス
 - ②遅れてゴールすると、1分につき（ ）点マイナスです。」
- (3) 「チェックポイントの番号の、1の位を切り捨てた10の位の数字が得点です。」
例：19…10点 31…30点
- (4) 「チェックポイントでは「ポーズシート」と同じポーズで写真を撮りましょう。」
カメラマン以外の全員で撮影しましょう。カメラマンは毎回交代しましょう。」
- (5) 作戦確認タイム（5～10分程度）

確認ポイント①歩くルート（侵入禁止の×印内で）
②標高の表示から高低差を確認

- (6) 「ゴールでチェック表とデジタルカメラを提出しましょう。採点に使います。」

フォトロゲイニング地図



地図記号

- 施設等
- 宿泊棟
- 数字 ナンバー看板
- キャンプ ファイヤー場
- 山荘
- ビューポイント 休九所
- 階段
- トイレ
- 駐車場
- 鉄塔・送電線
- 橋
- 行き止まり
- いなさみどりバス 停留所
- 炭 炭焼かま跡
- 県道
- 国有林道 (進入禁止)

かわなフォトロゲイニング《ポーズシート》

★★ チェックポイントでハイポーズ!! ★★

★得点の数え方★

チェックポイント番号の
1の位を切り捨てた数字が
得点です。

(例) 19 → 10点

31 → 30点

10 本館の標高



11 3つの出会い



24 メインファイヤー場



25 受水槽(90t)



26 まむし谷



12 天体観測棟



13 G炊飯棟



14 わんぱく山展望台



30 鉄塔



31 浦山展望台



32 くらやみ沢



15 ポンタ展望台



16 ふじだな



17 ふれあい門



33 第3キャンプ場



34 おそ淵口



50 見おろし岩



18 Bファイヤー場



19 アスレチック



20 第1キャンプ場



51 こりすつづら



52 C-2 テント



53 見晴台



21 A炊飯棟



22 第2キャンプ場



23 ひよどり



100

霧山山頂

最高得点

100点だよ!



活動名	ネイチャーゲーム															
— ネイチャーゲームとは？ — 米国のナチュラリスト「ジョセフ・コーネル」さんが、1979年に発表した自然体験プログラムの名称。 人間の五感を用いた様々な活動を通して、自然の不思議や仕組みを学び、自然と自分が一体であることに気づくことを目的としている。																
概要と期待できる教育的効果	・ 自然や環境への理解が深まる。 ・ 五感によるさまざまな自然体験が得られる。 ・ 自然の美しさや面白さを発見できる。 ・ 他者への思いやりや生命を大切にする心が育つ。 ・ 感受性が高まる。															
諸条件	場 所	ふれあい広場	対 象	幼児から大人まで												
	所要時間	1 ゲーム毎30分間程度	人 数	1 グループ40人まで												
	時 期	全シーズン	天 候	天候に合わせたゲーム展開												
	センター所員の支援	有 ・ 無 ※支援無で団体独自での実施も可	その他	団体に支援の手伝いをしていただく場合もあります												
準備物	センターが貸し出す物 各ゲームの種類による		団体（個人）が準備する物 特になし													
活動内容（手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> <th>※進行：所員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10分</td> <td> 始めの会 ※所員主導 ① あいさつ～所員紹介 ② ネイチャーゲームとは？ ③ ながれと注意事項 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>30分～</td> <td> ☐ 1 チーム40人までとし、1 ゲーム30分間程度行う。 ☐ 2 チーム以上ある団体は、ローテーションでそれぞれのゲームを体験する。 ☐ 途中、適宜トイレ休憩をはさむ。 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>5分</td> <td> 終わりの会 ※所員主導 ① 振り返り ② あいさつ </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				所要時間	内 容	※進行：所員	10分	始めの会 ※所員主導 ① あいさつ～所員紹介 ② ネイチャーゲームとは？ ③ ながれと注意事項		30分～	☐ 1 チーム40人までとし、1 ゲーム30分間程度行う。 ☐ 2 チーム以上ある団体は、ローテーションでそれぞれのゲームを体験する。 ☐ 途中、適宜トイレ休憩をはさむ。		5分	終わりの会 ※所員主導 ① 振り返り ② あいさつ	
所要時間	内 容	※進行：所員														
10分	始めの会 ※所員主導 ① あいさつ～所員紹介 ② ネイチャーゲームとは？ ③ ながれと注意事項															
30分～	☐ 1 チーム40人までとし、1 ゲーム30分間程度行う。 ☐ 2 チーム以上ある団体は、ローテーションでそれぞれのゲームを体験する。 ☐ 途中、適宜トイレ休憩をはさむ。															
5分	終わりの会 ※所員主導 ① 振り返り ② あいさつ															
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（雨による転倒等） ☐ 熱中症による体調不良 ☐ 山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐ 人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）															

ネイチャーゲーム 紹介

タイトル	カモフラージュ（カムフラージュ）
概要	道のわきに目立たないように置かれた人工物を、注意深く探すゲーム
実施場所	ふれあい広場とその周辺 他
貸出物	□各種人工物（鉛筆・空き缶・腕時計 など） ※設置・片付けは所員
ながれ	1 ルール説明 カモフラージュとは？ 周囲に同化する保護色、周囲に似せる擬態などのこと。敵から身を守り、獲物を捕らえる生きものたちの「生きる知恵」を体感する。 2 ゲーム 人工物をロープに沿って探し、探し出した数をゴールで報告する。 ・一人ずつスタート（見つけても教え合ったりしない） ・終点までいったら、見つけた数をリーダーに報告 ・全部見つけられなかったら、再度挑戦 3 正解発表

タイトル	フィールドビンゴ
概要	自然に関するいろいろなテーマを扱ったビンゴゲーム
実施場所	ふれあい広場とその周辺 他
貸出物	□ビンゴカード □鉛筆
ながれ	1 ルール説明 (1) ビンゴカードを配布。 (2) カードのマスに書かれている自然物（葉っぱの大きさや木の触り心地、木の実…など）を探し、ビンゴを目指す。 2 ゲーム 3 振り返り ビンゴカードに書かれた特徴を持つ自然物を探すことを通して、自然の豊かさを見つけることができたか。

タイトル	目かくしエイモムシ
概要	目かくしをして一列になり、誘導されながら自然散策をするゲーム
実施場所	ふれあい広場とその周辺・本館・別館
貸出物	□目かくしバンド
ながれ	1 ルール説明 (1) 目をつぶり、視覚以外の感覚で自然を感じる。 (2) 目かくしバンドの使い方 (3) 視覚をふさぐことで、無意識のうちに周囲の自然を感じ取る体験をする。 2 ゲーム (1) リーダー以外、目かくしをして一列になる。 (2) リーダーは列の先頭者の手を握りながら、誘導する。先頭者以降は前の人の肩をつかんでおく。 (3) ゴールで目かくしを外し、どのルートを通ったか目を開けながら予



	想する。 (4) リーダーからの正解発表。 (5) リーダーをローテーションしながら(1)～(4)を繰り返す。 3 振り返り 今まで感じなかった目かくしをした時の距離感や、鳥のさえすりや風の音を、敏感に意識することができたか。
--	--

タイトル	目かくしトレイル	
概要	視覚以外の感覚を使って自然を探検するゲーム	
実施場所	ふれあい広場とその周辺 他	
貸出物	目かくしバンド	
ながれ	1 ルール説明 (1) 目をつぶり、視覚以外の感覚で自然を感じる。 (2) 目かくしバンドの使い方を説明する。 (3) 森の中に張られた1本のロープを頼りに、視覚以外の感覚を使いながら探検する。 2 ゲーム (1) 「目かくしイモムシ」でウォーミングアップ (2) 目かくしトレイル ※ゲームを始める前にコースを確認する場合と、ゲーム後にコースを確認する場合のふたつがある。 3 振り返り 視覚を閉ざすことで、聴覚、嗅覚、触覚がより敏感になり、深い自然とのふれあいを楽しむことができたか。	



タイトル	葉っぱジャンケン		
概要	多種多様な葉っぱを採集し、それらを使ってジャンケンするゲーム		
実施場所	ふれあい広場とその周辺・本館・別館		
貸出物	なし		
ながれ	1 ルール説明 (1) 様々な葉っぱを採集し、色や形、手触りからその特長を感じ取る。 (2) 様々な葉っぱでお題に合わせてジャンケンをし、勝敗を決める。 例「勝ち負けテーマ発表！ ギザギザいっぱい葉っぱでジャンケン！」 「♪葉っぱジャンケン ハッピーパ！」 2 ゲーム (1) 葉っぱを採集する。(約3種類) (2) 2～3人組を作り、背中合わせになる。 (3) テーマを発表し、ジャンケンをする。 ※テーマを出す順番…所員→指導者→参加者 (4) 参加者は手持ちの葉っぱをテーマに合わせて勝敗を決める。 (5) ジャンケン相手やテーマ発表者を交代し、(2)～(4)を繰り返す。 3 振り返り 色や形、手触りなど、これまで気づかなかった葉っぱの魅力に迫ることができたか。		

タイトル	バットモス（コウモリとガ） ※雨天実施可能	
概要	コウモリとガの食べる・食べられるの関係を体験しながら学ぶゲーム	
実施場所	ふれあい広場とその周辺・本館・別館	
貸出物	目かくしバンド	
ながれ	1 ルール説明 (1) 10人程度のグループを作る。 (2) グループ中、1人が目隠しバンドでバット（コウモリ＝食う側）役になる。 (3) グループ中、1～2人がモス（ガ＝食われる側）役になる。 (4) 残りは手をつないで円を作る。 (5) バット役、モス役は円の中に入る。円役の人たちはバット役とモス役が外に出ない囲いになる。 (6) バット役は超音波の代わりに「バット！」と叫ぶ。叫ばれたモス役は、超音波を跳ね返す代わりに「モス！」と叫ぶ。 (7) バット役は返答された声を頼りに、モス役を捕まえ捕食！ (8) グループ内で役を交代し(2)～(7)を繰り返す。 2 ゲーム 3 振り返り 視覚を閉ざすことで、聴覚をより敏感にすることができたか。	



タイトル	動物交差点 ※雨天実施可能	
概要	自分の背中につけられた動物カードを、周囲の人たちに質問しながら当てるゲーム	
実施場所	ふれあい広場とその周辺・本館・別館	
貸出物	動物カード 洗濯ばさみ	
ながれ	1 ルール説明 (1) 自分の首の後ろ（襟）に、動物カードを洗濯ばさみで挟んでもらう。（自分は何の動物カードが挟まれているか分からない） (2) 挟まれたカードについての質問を、友達に聞いて回る。 聞き方の例「わたしは羽がありますか？」 「わたしの色は何色ですか？」 (3) 直接答えを聞くのではなく、特徴を聞き出しながら答えを導き出す。 (4) 正体（答え）が分かったら、指導者に答えを告げる。正解なら新しいカードに挑戦。間違いであれば、再度質問をする。 2 ゲーム 3 振り返り これまでの知識をもとに当てることで、動物たちの豊かな特徴に気付くことができたか。	



※所要時間…すべて30分間程度

参考資料

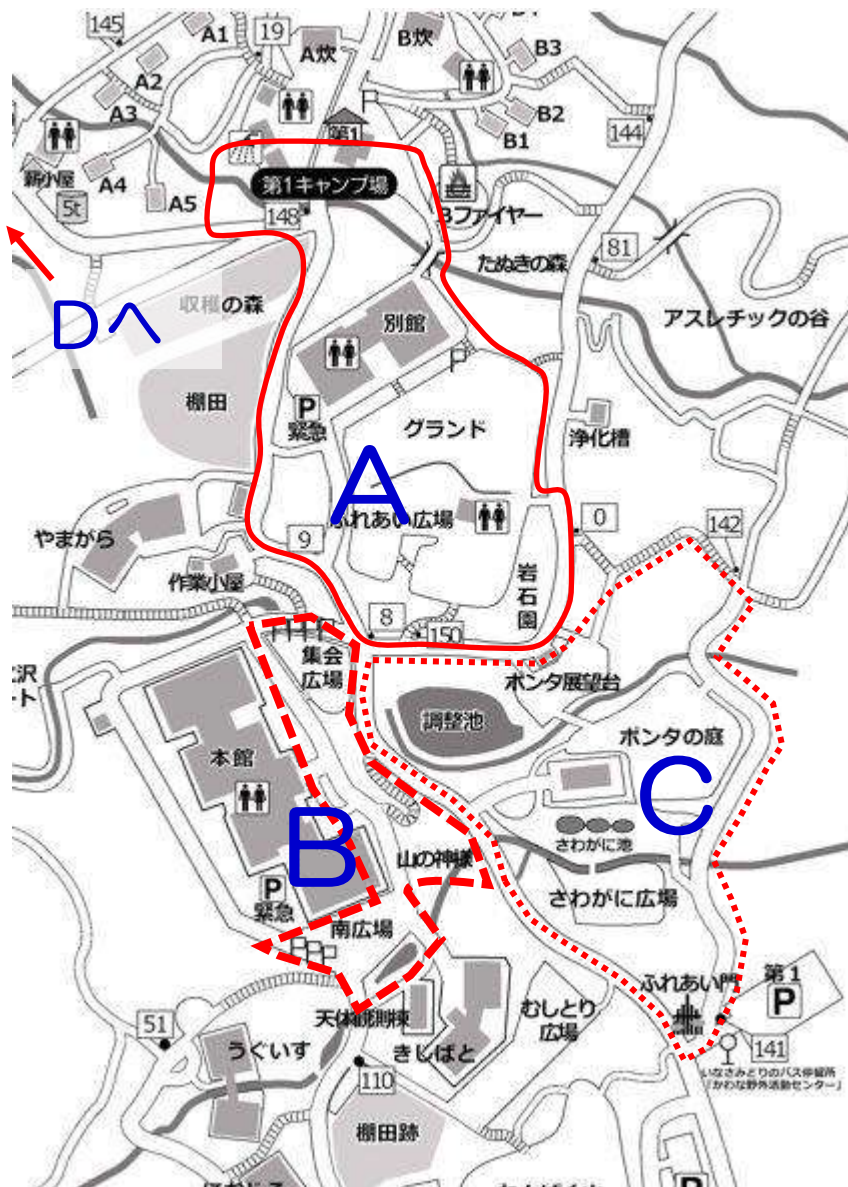
公益財団法人日本シェアリングネイチャー協会 <https://www.naturegame.or.jp/>

活動名	自然観察			
概要と期待できる教育的効果	- 植物や動物を見つめながら、これまで知らなかった自然界の知恵に気づくことで、興味関心を高めることができる。 - 植物や動物を見つめることで、自然を大切にしようとする心を育むことができる。			
諸条件	場 所	すべてのフィールド	対 象	すべて
	所要時間	60～90分間が適当	人 数	制限なし
	時 期	全シーズン	天 候	荒天不可・雨天相談
	センター所員の支援 有 ・ 無		その他	所員支援有は要相談
準備物	センターが貸し出す物		団体（個人）が準備する物	
	無線機（親機）×1台 無線機（子機）×14台 ※各上限		☐ 地図（指導者が必要な場合） ☐ 自然観察資料 ☐ 救急用品 ☐ 登山装備（雨具・防寒具等） ☐ 水分 等	
活動内容（手順）	所要時間： 内 容 ※進行：所員			
	10分	始めの会（P2参照）		
	45～90分間	自然観察（主に植物観察・昆虫観察）		
	10分	終わりの会（P2参照）		
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐ 疲労による事故（熱中症含む） ☐ 山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐ 人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）			

自然観察について

おすすめの自然観察は大きく2つあります。「植物観察」と「昆虫観察」です。そのため
のエリアが整備され、名札をつけてある植物もあります。

1 植物観察



A エリア…ふれあい広場周辺エリア

かわなの代表的な樹木を観察でき、
様々な違いを発見できるおすすめのエ
リアです。

- アカマツ・クロマツ・テダマツ
- コナラ・アベマキ・クヌギ
- スギ・ヒノキ
- サンショウ・イヌザンショウ

【その他】

- ・ホオノキ、ミツマタ、フジ、クロ
モジ、タラノキ、クリなど
- ・第1キャンプ場門手前にある、植
物同士の生存競争（アベマキにフ
ジが巻き付いている）も必見です。

※岩石園の観察もおすすめです。

※「ネイチャーゲーム」でもこのエリ
アを使います。

B エリア…本館前道路周辺エリア

玄関前にはヤマザクラやソメイヨシ
ノといった桜の木、コブシなどがあ
ります。

道路沿いでは、アラカシ・アカガシ
などカシ類の他、サカキ・ヒサカキ、モ
ミなどがあります。また、紙すきの原
料（コウゾ、ミツマタなど）や臭いのあ
る植物（クロモジ、クサギなど）や半寄
生植物（ヒノキバヤドリギなど）の観
察ができます。

C エリア…さわがに広場・ポンタの庭周辺エリア

多種多様な樹木を観察できます。沢や池では、サワガニ等、水辺の生き物も観察できます。

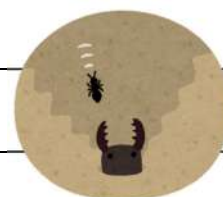
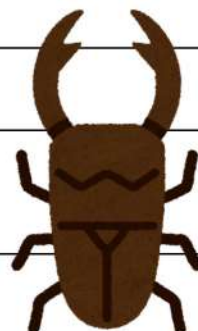
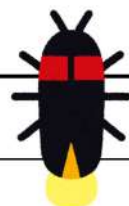
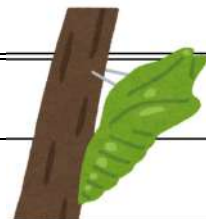
D コース…尾根ルート周辺

霧山山頂から見晴台、そしておそ溜口や水位計に続く尾根づたいのルートは、春から夏は、ドウ
ダンツツジ・モチツツジ・ヤマツツジ・ウツボグサが、秋はオミナエシ・マツムシソウ・サワヒヨ
ドリ・イズコゴメグサなどの草花が観察できます。

2 昆虫観察

四季折々の姿を見せてくれる「かわなの自然」のなかで、昆虫たちも息づいています。彼らの住まいは、樹木・葉・草・土などです。静かにのぞいてみましょう。

季節	おすすめ	
春	3月後半	ミヤマセセリ、テングチョウ
	4月終わり	ジャコウアゲハ
	5月	クロアゲハ、オナガアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ
	地面	アオオサムシ、ミイデラゴミムシ
夏	水辺	ゲンジボタル、ハイケボタル
	松の朽ち木	ウバタマムシ、キマワリ
	クヌギやコナラの樹液	ミヤマクワガタ、コクワガタ、カブトムシ、クロカナブン、スズメバチ、ルリタテハ
	クリやタラの木	シロスジカミキリ、センノカミキリ
	クサギやウツギなどの匂いの強い花	ヨツスジハナカミキリ、クロマルハナバチ、アオハナムグリ
	夜の灯火	ツノトンボ、ノコギリカミキリ、シンジュサン、オオミズアオ
	ケヤキやエノキ	ヤマトタマムシ
秋	ハギ類の葉	マメコガネ、ヤニサシガメ、ハラビロヘリカメムシ
	コウゾ	キイロテントウ
	草原	クルマバッタ、ツチイナゴ、クサキリ、フキバッタ、エンマコオロギ
冬	冬越しする昆虫	ヒメカマキリやウスタビガの繭、ウバタマムシ（朽ち木）
通年	朽ち木	オオゴキブリ
	クヌギやコナラ	ナナフシ
	宿泊棟の周り	ウスバカゲロウ（アリジゴク）



活動名	クラフト			
概要と期待できる教育的効果	・ 自然素材を使うことで、肌で自然を感じて親しみをもったり、創造性を養ったりすることができる ・ 手作りで思い出を作成することで、用具の扱いを学びながら自ら完成させた達成感を味わうことができる。			
諸条件	場 所	室内	対 象	種類による
	所要時間	種類による	人 数	種類により制限あり
	時 期	全シーズン	天 候	全天候可
	センター所員の支援	有 ・ 無	その他	
準備物	センターが貸し出す物 各クラフトの種類による		団体（個人）が準備する物 ☐ 筆記用具（主に記名用） ☐ 作品を持ち帰る袋	
活動内容（手順）	所要時間 内 容 ※進行：所員			
	5分 始めのあいさつ～所員紹介			
	40～160分 クラフト9種類 ※下図参照（所要時間は活動による）			
	15分 片付け（団体全員）～終わりのあいさつ			
想定されるリスク	口けが（板のとげが刺さる、のこぎり・キリなど用具での裂傷など）			

活動名		荒天時代替難	定員	団体が準備する物
1 ウッドペイント		○		場合により色ペン
竹 細 工	2 うぐいす笛	○	165人迄	
	3 竹とんぼ	×	40人迄	
4 木の実クラフト		○	30人迄	持ち帰り用ビニール袋
5 ウッドクリップ		○		場合により色ペン
6 絵手紙		○	70人迄	場合によりサインペン
7 すべすべストラップ（杉板・輪切材）		○		
8 バードコール		○		場合により色ペン
9 小枝ストラップ		○		場合により色ペン

※ 荒天時に晴天時の代替えで実施する場合は1種目のみ選択が可能です。

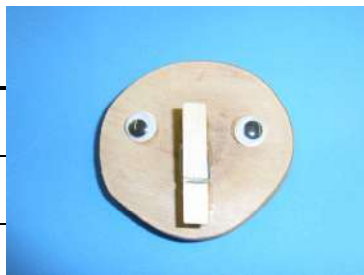
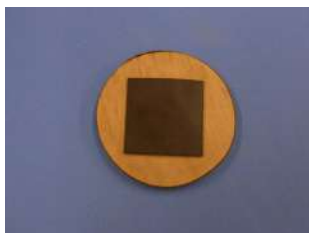
タイトル	ウッドペイント（ウッドマグ）		
対 象	幼稚園児以上		
所要時間	2時間程度		
貸出用具	☐ 鉛筆 ☐ 筆 ☐ パレット ☐ 水入れ容器 ☐ ニス用容器 ☐ はけ ☐ 新聞紙 ☐ ドライヤー ☐ 雑巾		
材 料	☐ 木片 ☐ ニス ☐ 絵の具		
作 り 方	1 木片に心に残ったことを、鉛筆で絵や文字に表す。 ※木片の裏に、「作成日と自分の名前」を記入する。 ※裏に磁石を付けることも可能（ウッドマグ） 2 筆と絵の具を使って、木片に文字や絵をかぐ。 3 文字や絵が乾いたら、ニスを塗る。 ※ニスを塗る前に、必ず文字や絵が乾いているかを確認する。 ※乾燥が進まない雨天時等は、ドライヤーを使用し、乾燥させる。 4 広げた新聞紙の上に置いて、乾燥させる。   		

タイトル	うぐいす笛		
対 象	小学校4年生以上		
所要時間	2時間程度		
貸出用具	☐ 小刀 ☐ きり（ねずみ） ☐ 紙ヤスリ ☐ 竹ひご ☐ 接着剤（瞬間接着剤が適している） ☐ 穴あけ用台 ☐ 鉛筆		
材 料	☐ 竹A（長さ80mm程度、外形15mm程度）＜太めの竹＞ ☐ 竹B（長さ80mm程度、外形10mm程度）＜細めの竹＞ ※中の薄い白い膜を竹ひごで取り除く。 ※竹は、乾燥させたものを使うとよく響く音ができる。		
作 り 方	1 太い竹Aを穴あけ用台に押し当てて動かないようにして、中央にきりで穴（直径5mm程度）をあける。 ※二人組で行い、一人が竹Aを押さえ、もう一人が穴をあける。 2 竹Aの穴のあいた部分を小刀で削って平らにする。 3 細い竹Bを小刀を使って、斜めに削る。先の部分が少し平らになるように調整する。 ※竹A、竹Bの削った部分に紙ヤスリをかけるとよい。 4 細い竹Bを太い竹Aの平らな部分をスライドさせ、位置を調整して、音がよく出る位置に接着剤で固定する。 ※接着剤が乾くまで、1分程度固定する。    		

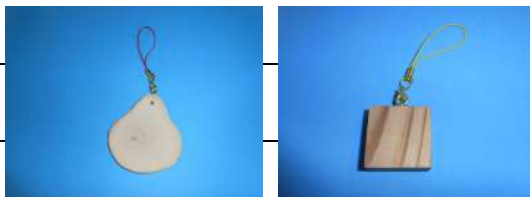
タイトル	竹とんぼ ※雨天時の活動の代替実施は不可			
対 象	小学校5年生以上			
所要時間	2～3時間程度			
貸出用具	□小刀 □きり □紙ヤスリ □雑巾（膝当て用） □定規 □鉛筆			
材 料	□竹A（180mm×10mm） □竹B（150mm×20mm）			
作 り 方	1 竹Bの幅と長さを測り、中央にきりで穴をあける。 2 羽根を削る。 ※右と左の形、厚み、形状が違っているとバランスが悪くて飛び方が悪くなる。 3 軸を作る。軸は、中心にあけた穴より少し太く仕上げ、穴に挿す部分だけ細くして穴に合わせる。 4 組み立てる。できあがった軸を羽根に挿せば完成。 ※羽根の角度や重さなどの加減で、飛び方が変わるので、広いところで飛ばす。納得いくまで何度も修正しましょう。 			

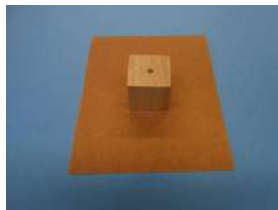
タイトル	木の実クラフト		
対 象	小学生以上（園児要相談）	場 所	別館第1クラフト室
所要時間	2時間程度	備 考	人数制限…6人×5グループ迄
貸出用具	□延長コード □新聞紙 □ホットボンド □ホットボンド用スティック □サインペン		
材 料	□台木 □名札木 □各種木の実（コウヤガシ、モミジワウ、ドングリ、ツバキ、マツ等）		
作 り 方	1 机の上に新聞紙をしき、台木、名札木を各自1個ずつ用意する。 2 置物のデザインを構想し、木の実の材料を用意する。 3 ホットボンドを用意して、名札木、木の実を接着する。		

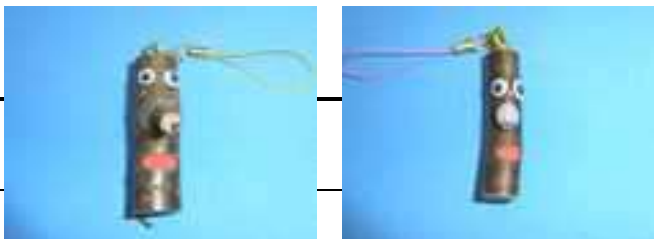


タイトル	ウッドクリップ			
対 象	幼稚園児以上			
所要時間	1 時間程度			
貸出用具	□ピンセット			
材 料	□木片 □木製ピンチ □動眼 □紙やすり □接着剤 □マグネットテープ			
作 り 方	1 木片の表面を紙やすりですべすべに磨く。 2 木片の裏側にマグネットテープをはる。 3 鼻の位置に木製ピンチ、目の位置に動眼2個を接着する。 ※サインペン等で装飾を追加することも可能（利用団体が用意）			
				

タイトル	絵手紙				
対 象	小学校4年生以上				
所要時間	2時間程度				
貸出用具	□中濃墨液 □半紙（練習用） □ボックスティッシュ □雑巾 □絵の具セット □筆洗いバケツ □パレット □筆（毛筆用、絵画用）				
材 料	□和画仙紙ハガキ				
作 り 方	1 半紙に筆を立て、墨で線を書く練習をする。 2 和画仙紙ハガキの上下に注意する。 3 描きたい物を、自然の中から探す。 4 墨でかく。 5 色をつける。 6 伝えたい気持ちを言葉に表す。				
					

タイトル	すべすべストラップ（輪切・杉板材）		
対 象	幼稚園児以上		
所要時間	1 時間程度		
貸出用具	□きり（電気ドリル） □延長コード		
材 料	□輪切・杉板材各 1 個 □紙やすり 2 枚 □ストラップひも（ヒートン等）		
作 り 方	1 輪切材の上部にきり（電気ドリル）で穴を開ける。（杉板材は下記） ※園児・低学年児童は、きり等を使わない杉板材使用がおすすめ！ 2 材の表面及び、角を紙やすりで磨く。 3 ストラップひもを付ける。 ※杉板を使用する場合は、ヒートンにストラップひもを付ける。 ※「輪切材」か「杉板」のどちらを使用するか、事前に連絡してください。 ＜輪切ストラップ＞ ＜杉板ストラップ＞ 		

タイトル	バードコール			
対 象	幼稚園児以上			
所要時間	1 時間程度			
貸出用具	□電気ドリル（2～3台） □延長コード			
材 料	□木片 □ねじ □紙やすり			
作 り 方	1 電気ドリルで木片に穴をあける。 2 紙やすりで木片の角を取ったり、表面を磨いたりする。 3 ねじを差し込み、音の出方を調整する。 ※ゴム印で飾り付けをすることも可能。 			

タイトル	小枝ストラップ		
対 象	幼稚園児以上		
所要時間	1 時間程度		
貸出用具	☐ ピンセット ☐ 瞬間接着剤（ゼリー状） ☐ つや出しニス ☐ 四つ目きり ☐ やすり		
材 料	☐ 小枝（主にサクラ）×1 ☐ ヒートン×1 ☐ 付箋（記名用） ☐ 手芸用目玉×2 ☐ ストラップひも×1		
作 り 方	1 小枝にヒートンを取り付ける。 2 ヒートンにストラップひもを取り付ける。 3 小枝に瞬間接着剤をつけ、手芸用目玉を取り付ける。 4 つや出しニスに漬け、垂れてこないようによくきる。 5 十分に乾かし、完成させる。 ※鼻や口をつけることもできます。 		

活動名	キャンプファイヤー											
概要と期待できる教育的効果	・ ゲームやスタンプを通し、友達と親睦を深めることができる。 ・ キャンプファイヤーの企画や運営を通し、リーダー性や協調性を養うことができる。 ・ 静寂の中、こうこうと燃える炎を見つめながら、自分の心を見つめ直すことができる。											
☆滞在期間始めの日程で行うと…緊張をほぐし、親睦を深める効果 ☆滞在期間最後の日程で行うと…活動のまとめや自己を深く見つめる効果												
諸条件	場 所	ファイヤー場×2カ所	対 象	すべて								
	所要時間	90～120分間	人 数	制限なし								
	時 期	4月～11月第1金曜日迄	天 候	少雨可（雨天時は相談）								
	センター所員の支援	有 ・ 無	その他	事前に井桁を組む必要有								
準備物	センターが貸し出す物 ☐ 火の神衣装セット×1人分 セット内容 ☐ 天狗お面 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ うちわ ☐ 木の杖 ☐ 巫女衣装セット×2人分 セット内容 ☐ 冠 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ マイクアンプセット セット内容 ☐ マイク ☐ アンプ ※CDやカセットテープ、Bluetooth等の音楽出力非対応 ☐ 延長コード		団体（個人）が準備する物 ☐ ファイヤー用薪セット ※要注文購入 ☐ トーチ棒 ※要注文購入（持込み可） ☐ ミュージックプレイヤーと音源 ☐ 軍手 ☐ 着火用ライターまたはマッチ ☐ 新聞紙 ☐ 懐中電灯 ※マイクアンプは団体持参をすすめます。事前に練習で使った機材は、暗闇の中でも間違いなく操作したり、細かく演出したりできるので、安心です。									
活動内容（手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60分</td> <td> 準備～リハーサル ☐ 事務室で借用物の受け取り ☐ ファイヤー場で購入物を確認 ☐ 団体にセッティング ☐ 役割分担に応じてリハーサルを実施 </td> </tr> <tr> <td>90～100分</td> <td> 第1部…迎火 ① 開会～火の神入場 ② ♪遠き山に日は落ちて ③ 火の神入場 ④ 火の神の言葉～分火・誓いの言葉～点火 ⑤ ♪燃えろよ燃えろ 第2部…交歓（レクリエーション・スタンプ・歌 等） 第3部…送火 ① 火の神の言葉 ② ♪今日の日さようなら ③ 火の神退場～閉会 </td> </tr> <tr> <td>45分</td> <td> 片付け（団体指導者） ☐ 消火と針金の除去 ☐ 事務室へ借用物の返却 </td> </tr> </tbody> </table>				所要時間	内 容	60分	準備～リハーサル ☐ 事務室で借用物の受け取り ☐ ファイヤー場で購入物を確認 ☐ 団体にセッティング ☐ 役割分担に応じてリハーサルを実施	90～100分	第1部…迎火 ① 開会～火の神入場 ② ♪遠き山に日は落ちて ③ 火の神入場 ④ 火の神の言葉～分火・誓いの言葉～点火 ⑤ ♪燃えろよ燃えろ 第2部…交歓（レクリエーション・スタンプ・歌 等） 第3部…送火 ① 火の神の言葉 ② ♪今日の日さようなら ③ 火の神退場～閉会	45分	片付け（団体指導者） ☐ 消火と針金の除去 ☐ 事務室へ借用物の返却
所要時間	内 容											
60分	準備～リハーサル ☐ 事務室で借用物の受け取り ☐ ファイヤー場で購入物を確認 ☐ 団体にセッティング ☐ 役割分担に応じてリハーサルを実施											
90～100分	第1部…迎火 ① 開会～火の神入場 ② ♪遠き山に日は落ちて ③ 火の神入場 ④ 火の神の言葉～分火・誓いの言葉～点火 ⑤ ♪燃えろよ燃えろ 第2部…交歓（レクリエーション・スタンプ・歌 等） 第3部…送火 ① 火の神の言葉 ② ♪今日の日さようなら ③ 火の神退場～閉会											
45分	片付け（団体指導者） ☐ 消火と針金の除去 ☐ 事務室へ借用物の返却											
想定されるリスク	☐ けが（準備段階での丸太や薪などで指を挟む、とげが刺さる 等） ☐ やけど（衣類に火が燃え移る、火の粉が体や衣類につく、トーチの布が緩んで落ちる 等） ☐ 転倒（主に第2部での暗闇の中の活動中、現地への移動時 等） ☐ 乾燥や強風による山火事（主に4～5月にかけて）											



キャンプファイヤーについて

キャンプファイヤーは、神秘的かつ厳粛な雰囲気をかもし出すことができるつどいです。ファイヤーを囲んで仲間との絆を深めたり、思い出を語ったりすることができます。真っ暗な闇の中に浮かび上がる炎を囲みながら、歌やゲームで思い切り自分自身を発揮したり、静かに炎を見つめたりしながら、普段では得がたい感動的なひとときにひたることができます。

1 準備

(1) ファイヤー場の選択

当センターにはファイヤー場が2か所あります。下表を参考に下見をし、事前打ち合わせで活動場所を決定しましょう。

	最大人数	神のいす	松いす	電源	照明	散水栓	消火栓
メインファイヤー場	363人	1脚	121脚	○	○	○	○
Bファイヤー場	240人	1脚	80脚	○	○	○	○

※最大人数は松いす1脚につき最大3人が座る想定で算出しています。

(2) ファイヤー薪セットの選択

当センターで購入できるファイヤー用薪セットは、井桁型に適しています。ファイヤー用薪セットは下表を参考に事前打ち合わせで決定しましょう。

	活動時間	丸太：太	丸太：細	枝束	燃料用薪	灯油
Aセット	約120分間	4本	8本	4束	1ケース	2L
Bセット	約90分間		12本	3束	1ケース	2L

※活動時間が50分程度の場合は、Cセットを選ぶことができます。
詳しくは料金表あるいは物品注文書をご覧ください。

(3) 井桁の組み方

組み方には「井桁型」の他、「ダイヤモンド型」「インディアン型」「スター型」などがあります。

ここでは、当センターがおすすめしている「井桁型」の組み方を紹介します。

1	① 購入されたファイヤー薪セットは、選択したファイヤー場に所員が準備します。 ② 団体で細い丸太12本をならべ、太さや形を確認します。	
2	① まず安定した太めの丸太を選びます。 ② 選んだ太めの丸太を井桁型に組みます。	
3	① 一段目の丸太の上に枝薪を並べます。 ② 枝のすき間が風の通り道になります。	
4	① 2段3段と組む際に、少しずつ内側に丸太を乗せます。横から見るとどの面も「台形」のような形になります。 ② 台形にすることにより、最後の枝束を「円すい形」にしやすいです。 ③ そうすることで、燃え尽きたときも内側に美しく崩れ、雰囲気が高まります。	
5	① 1段目に並べた枝薪の土台に乗せるように、燃料用薪の一部を差し込みます。 ② この際も、つめすぎて風の通り道がなくならないように注意しましょう。	
6	① 最後に、枝束を「円すい形」になるように差し込んでいきます。 ② この際も、つめすぎないことや、周りの丸太のバランスをくずさないことを注意しましょう。	

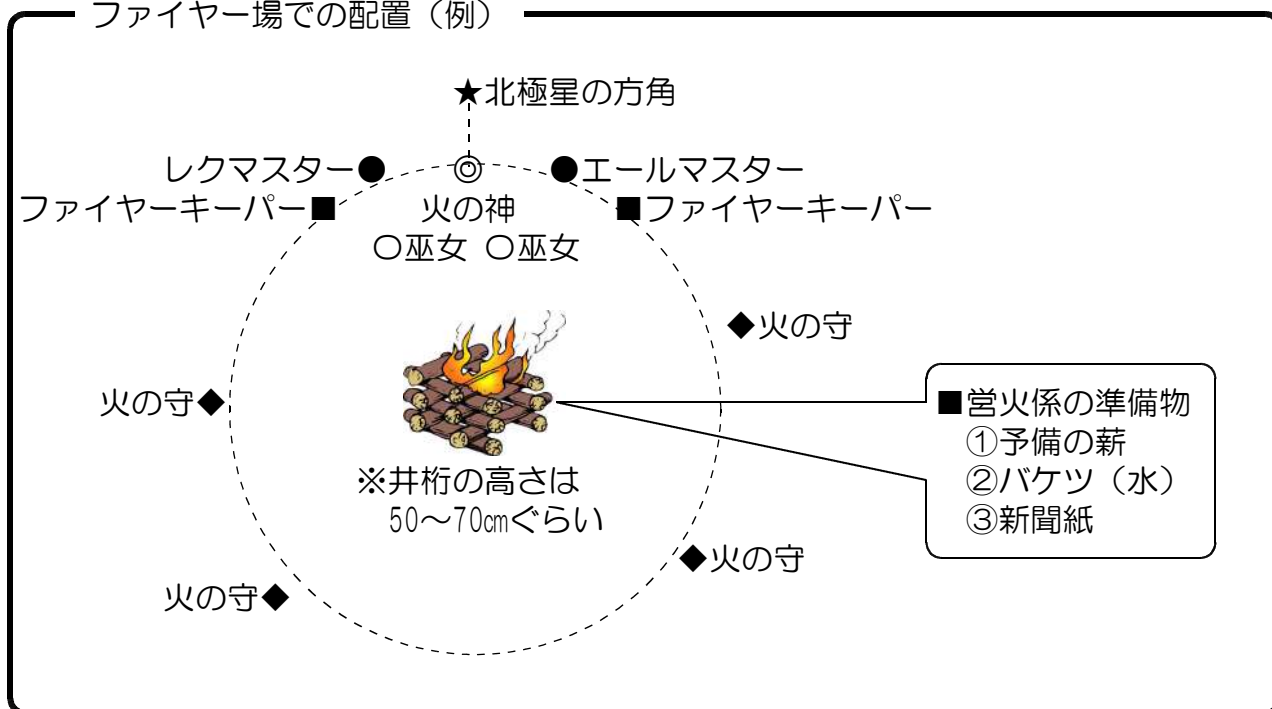
※上記説明は「Bセット」の数量で設定。

2 役割と配置

キャンプファイヤーには以下の役割が考えられます。

役割名	はたらき
火の神	火の神の言葉～つどい全体を見守る ※可能ならば北極星を背にした位置に座る
火の巫女	トーチを運び、火の神を導く
火の守（もり）	各グループ代表者
エールマスター	主に全体の司会・進行
レクマスター	第2部交歓の司会・進行
ファイヤーキーパー	火加減を調整する係

ファイヤー場での配置（例）



3 なかれ

主に3部に分かれます。キャンプファイヤーの要素には「4S」があります。

4S	Song	ソング	歌
	Stunts	スタンツ	出し物
	Story	ストーリー	物語
	Showmanship	ショーマンシップ	演出

この4Sのバランスを考え、団体全員で取り組みましょう。

(1) 集合・整列

- ① ファイヤー場の手前に参加者を集合させる。
- ② 全体指導は以下の通り
 - ・人員点呼
 - ・健康観察
 - ・入場は心を落ち着け穏やかに

(2) 第1部 迎火(点火のセレモニー)

【10~20分】

- ① はじめの言葉
- ② 火の神入場
 - ・♪「遠き山に日は落ちて」を全員で歌い、火の神を迎える。
 - ・火の神は、火の巫女に先導され、会場を時計と反対回りで一周し、定位につく。
- ③ 火の神の言葉
- ④ 分火の儀式
 - ・代表の火の守はトーチを持ち、火の神の前に膝まづく
 - ・火の神→火の守
- ⑤ 点火
 - ・火の神の発声により、火の巫女と火の守が井桁に点火する。
- ⑥ エールマスターの言葉
 - ・♪「燃えろよ燃えろ」を全員で歌う。

(3) 第2部…交歓

【40~60分】

- ① レクマスターの司会進行で、出し物を披露する。
 - ・レクリエーション(ゲーム・ダンス)
 - ・スタンツ(グループ・クラス毎に)
 - ・歌
- ② 第2部最後の出し物の前に、巫女は衣装を着て、新しいトーチを準備し、火の神の前に移動する。

(4) 第3部…送火

【10~20分】

- ① エールマスターの言葉
- ② 採火の儀式
 - ・火の神の言葉
- ③ 火の神退場
 - ・♪「今日の日はさようなら」を全員で歌い、火の神を送る。
 - ・火の神は火の巫女に先導され、会場を一周して退場する。
- ④ 終わりの言葉

(5) 退場・振り返り

- ① 3部の余韻が残るように静かに集合した場所まで移動する。
- ② しおりに感想を記入すると、思い出が残るとともに、集いの中で感じたことや考えたことを振り返ることができる。

盛り上げるポイント

- ★ 火の勢い … 第1部 = 大きく炎を立てない程度
第2部 = 炎を勢いよく
第3部 = 薪が燃え尽き、^お熾きになっているのが理想
- ★ 活動時間 … 長すぎないように留意。1時間30分程度で余韻を残す。

活動名	キャンドルのつどい																		
概要と期待できる教育的効果	・ ゲームやスタンツを通し、友達と親睦を深めることができる。 ・ キャンドルのつどいの企画や運営を通し、リーダー性や協調性を養うことができる。 ・ 静寂の中、ゆらゆらと燃える火を見つめながら、自分の心を見つめ直すことができる。																		
☆滞在期間始めの日程で行うと…緊張をほぐし、親睦を深める効果 ☆滞在期間最後の日程で行うと…活動のまとめや自己を深く見つめる効果																			
諸条件	<table border="1"> <tr> <td>場 所</td> <td>本館体育室・別館大ホール</td> <td>対 象</td> <td>すべて</td> </tr> <tr> <td>所要時間</td> <td>90～120分間</td> <td>人 数</td> <td>制限なし</td> </tr> <tr> <td>時 期</td> <td>通年</td> <td>天 候</td> <td>いつでも可</td> </tr> <tr> <td>センター所員の支援</td> <td>有 ・ 無</td> <td>その他</td> <td>場所代に別途利用料が必要</td> </tr> </table>			場 所	本館体育室・別館大ホール	対 象	すべて	所要時間	90～120分間	人 数	制限なし	時 期	通年	天 候	いつでも可	センター所員の支援	有 ・ 無	その他	場所代に別途利用料が必要
場 所	本館体育室・別館大ホール	対 象	すべて																
所要時間	90～120分間	人 数	制限なし																
時 期	通年	天 候	いつでも可																
センター所員の支援	有 ・ 無	その他	場所代に別途利用料が必要																
準備物	<table border="1"> <tr> <td>センターが貸し出す物</td> <td>団体（個人）が準備する物</td> </tr> <tr> <td> ☐ 火の神衣装セット×1人分 セット内容 ☐ 天狗お面 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ うちわ ☐ 木の杖 ☐ 丸太いす ☐ 巫女衣装セット×2人分 セット内容 ☐ 冠 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ マイクアンプセット セット内容 ☐ マイク ☐ アンプ ☐ 延長コード ☐ 燭台セットと回収用バケツ セット内容 ☐ 燭台（特大・大・小） ☐ 会場燭台用ブルーシート ☐ チャッカマン ☐ ものさし（片付け時にろうをとるため） </td> <td> ☐ ろうそく燭台用 ※有料レンタル形式にて要注文 ☐ ろうそく個人用 ※要注文購入（持込み可） ☐ ミュージックプレイヤーと音源 ☐ 懐中電灯 ※センターで貸し出すアンプは、CDやカセットテープ、Bluetooth等の音楽出力非対応となっています。 ※マイクアンプは団体持参をすすめます。事前に練習で使った機材であれば、暗闇の中でも間違いなく操作したり、細かく演出したりできるので安心です。 </td> </tr> </table>			センターが貸し出す物	団体（個人）が準備する物	☐ 火の神衣装セット×1人分 セット内容 ☐ 天狗お面 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ うちわ ☐ 木の杖 ☐ 丸太いす ☐ 巫女衣装セット×2人分 セット内容 ☐ 冠 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ マイクアンプセット セット内容 ☐ マイク ☐ アンプ ☐ 延長コード ☐ 燭台セットと回収用バケツ セット内容 ☐ 燭台（特大・大・小） ☐ 会場燭台用ブルーシート ☐ チャッカマン ☐ ものさし（片付け時にろうをとるため）	☐ ろうそく燭台用 ※有料レンタル形式にて要注文 ☐ ろうそく個人用 ※要注文購入（持込み可） ☐ ミュージックプレイヤーと音源 ☐ 懐中電灯 ※センターで貸し出すアンプは、CDやカセットテープ、Bluetooth等の音楽出力非対応となっています。 ※マイクアンプは団体持参をすすめます。事前に練習で使った機材であれば、暗闇の中でも間違いなく操作したり、細かく演出したりできるので安心です。												
センターが貸し出す物	団体（個人）が準備する物																		
☐ 火の神衣装セット×1人分 セット内容 ☐ 天狗お面 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ うちわ ☐ 木の杖 ☐ 丸太いす ☐ 巫女衣装セット×2人分 セット内容 ☐ 冠 ☐ 白装束 ☐ 腰ひも ☐ マイクアンプセット セット内容 ☐ マイク ☐ アンプ ☐ 延長コード ☐ 燭台セットと回収用バケツ セット内容 ☐ 燭台（特大・大・小） ☐ 会場燭台用ブルーシート ☐ チャッカマン ☐ ものさし（片付け時にろうをとるため）	☐ ろうそく燭台用 ※有料レンタル形式にて要注文 ☐ ろうそく個人用 ※要注文購入（持込み可） ☐ ミュージックプレイヤーと音源 ☐ 懐中電灯 ※センターで貸し出すアンプは、CDやカセットテープ、Bluetooth等の音楽出力非対応となっています。 ※マイクアンプは団体持参をすすめます。事前に練習で使った機材であれば、暗闇の中でも間違いなく操作したり、細かく演出したりできるので安心です。																		
活動内容（手順）	<table border="1"> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> <tr> <td>60分</td> <td> 準備～リハーサル ☐ 事務室で借用物の受け取り ☐ 会場で購入物を確認 ☐ 団体でセッティング ☐ 役割分担に応じてリハーサルを実施 </td> </tr> <tr> <td>90～100分</td> <td> 第1部…迎火 ① 開会～火の神入場 ② ♪遠き山に日は落ちて ③ 火の神入場 ④ 火の神の言葉～分火・誓いの言葉～点火 ⑤ ♪ほしかげさやかに 第2部…交歓（レクリエーション・スタンツ・歌 等） 第3部…送火 ① 火の神の言葉 ② ♪今日の日はさようなら ③ 火の神退場～閉会 </td> </tr> <tr> <td>45分</td> <td> 片付け（団体指導者） ☐ ろうそくと燭台の分別～レンタルろうそく返却 ☐ 事務室へ借用物の返却 </td> </tr> </table>			所要時間	内 容	60分	準備～リハーサル ☐ 事務室で借用物の受け取り ☐ 会場で購入物を確認 ☐ 団体でセッティング ☐ 役割分担に応じてリハーサルを実施	90～100分	第1部…迎火 ① 開会～火の神入場 ② ♪遠き山に日は落ちて ③ 火の神入場 ④ 火の神の言葉～分火・誓いの言葉～点火 ⑤ ♪ほしかげさやかに 第2部…交歓（レクリエーション・スタンツ・歌 等） 第3部…送火 ① 火の神の言葉 ② ♪今日の日はさようなら ③ 火の神退場～閉会	45分	片付け（団体指導者） ☐ ろうそくと燭台の分別～レンタルろうそく返却 ☐ 事務室へ借用物の返却								
所要時間	内 容																		
60分	準備～リハーサル ☐ 事務室で借用物の受け取り ☐ 会場で購入物を確認 ☐ 団体でセッティング ☐ 役割分担に応じてリハーサルを実施																		
90～100分	第1部…迎火 ① 開会～火の神入場 ② ♪遠き山に日は落ちて ③ 火の神入場 ④ 火の神の言葉～分火・誓いの言葉～点火 ⑤ ♪ほしかげさやかに 第2部…交歓（レクリエーション・スタンツ・歌 等） 第3部…送火 ① 火の神の言葉 ② ♪今日の日はさようなら ③ 火の神退場～閉会																		
45分	片付け（団体指導者） ☐ ろうそくと燭台の分別～レンタルろうそく返却 ☐ 事務室へ借用物の返却																		
想定されるリスク	☐ けが（準備段階で燭台を足に落とす、燭台の釘が刺さる） ☐ やけど（衣類に火が燃え移る、ろうが皮膚につく） ☐ 転倒（主に第2部での暗闇の中の活動中）																		



キャンドルのつどいについて

キャンドルのつどいは、神秘的かつ厳粛な雰囲気をかもし出すことができるつどいです。ろうそくの灯が放つ雰囲気は、参加者を非日常へと誘います。BGMや歌にのせて語る叙情的なナレーションを聴いたり、ろうそくの灯を見ながら振り返りをしたりする体験ができ、つどいを通して普段では得がたい感動的なひとときを味わうことができます。

《初めての方へ》

- 基本的な流れは、キャンプファイヤーと同様です。
- 第2部では、中央に設置した燭台を片づけ、安全を確保します。
- 場面によっては室内照明が利用できます。
- 1人1人が個人用燭台を持ち、分火していく印象深さが醍醐味です。

1 準備

(1) 会場の選択

集いの場は原則以下の通りです。

本部が本館にある団体 → 本館 体育室

本部が別館にある団体 → 別館 多目的ホール

※事前打ち合わせ時に会場を決定します。

(2) 事前指導のお願い…「ろうそくの火の受け渡し方」



①やけどをしないように！

②火のついているろうそくは絶対に傾けないこと！

③火のついていないろうそくを傾けて火をもらうこと！

④床にろうそくを垂らさないように！

伝達例…「火のついていないろうそくを持っている人へ。火のついている人のろうそくに自分のろうそくを近づけて火をもらいましょう。」

「火のついているろうそくを持っている人へ。そのろうそくを絶対に傾けず、まっすぐ立てたまま持っていましょう。」

(3) 会場での準備

①火の神用の丸太いす

□通常は北極星を背にする位置にします。

□当センターでは国旗側を背にした位置に置くことが多いです。

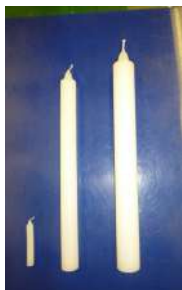
②ろうそく



燭台（特大）

- まず下にブルーシートを敷きます。
- 次に中ろうそくを、巫女用に2本、火の守（誓いの言葉）用に必要本数を準備します。
- 最後に大ろうそく1本を設置し、中ろうそく8本をバランスよく配置します。（例参照）

（例）巫女2人・火の守4人の場合
レンタル総本数15本－（中6本）＝9本
→燭台（特大）に、9本（大1本、中8本）を設置します。



使用するろうそく

右から

- ・ろうそく（大）…レンタル
- ・ろうそく（中）…レンタル
- ・個人用ろうそく（小）…販売品



燭台（大）

- 火の巫女用と火の守用です。
- レンタルのろうそくを差し込みます。



燭台（小）

- 販売品の個人用ろうそくを準備します。
- 燭台（小）についている釘に、個人用ろうそくを差し込みます。
- ※強く差し込むと折れてしまいます。注意しましょう。



- ※個人用ろうそくは、会場の窓側に置いておきます。
- 班ごとに表示を用意しておき、その用紙の上に人数分を置くと分かりやすいです。

③リハーサル

アンプ関係

- CDデッキをアンプに接続し、音が出るか確認します。
- 音楽やマイクの音量も調整します。

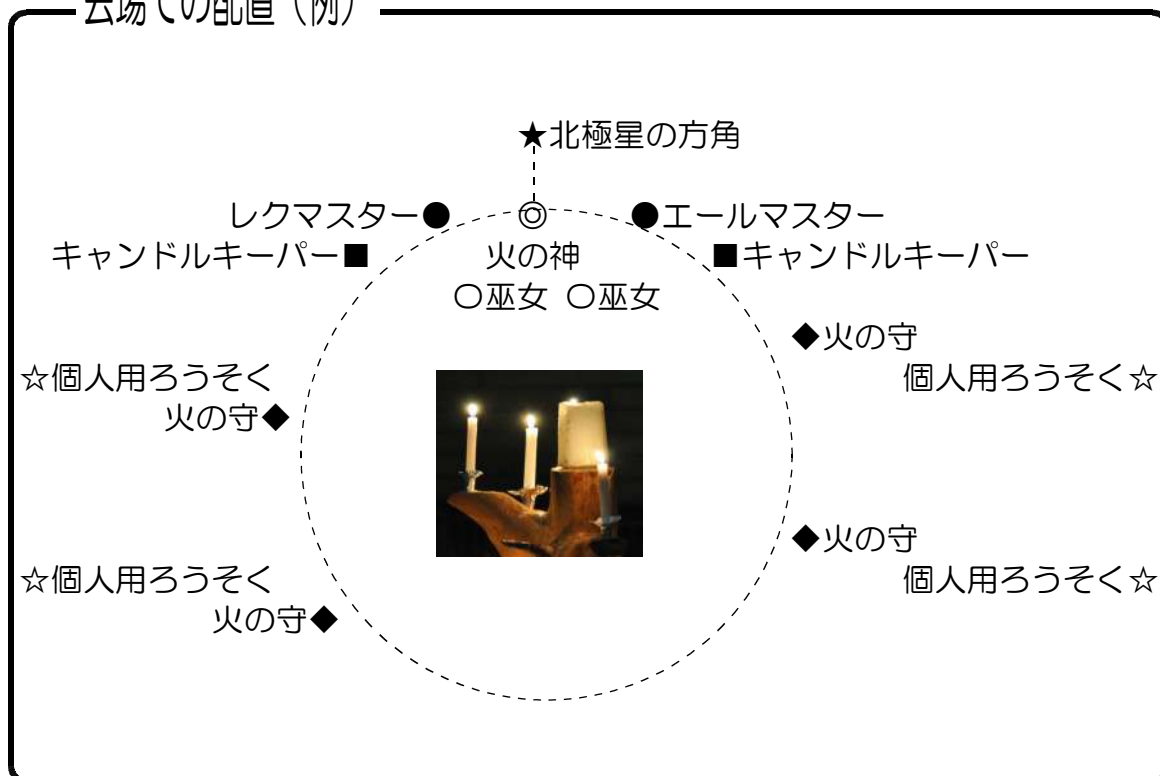
照明

- LEDライトは光量の調節ができません。
- スポットライトは光量の調整が可能です。
→ダイヤル式つまみで試してください。ろうそくに点火された後には暗くすると、幻想的な雰囲気を作り出すことができます。

せりふや動き

- 第1部と第3部を実際に行い、以下の最終確認をしましょう。
→各係の立ち位置
→火の神と火の神を誘導する火の巫女の動き
→火の守の位置と集合位置
→点火の際の立ち位置

会場での配置 (例)



2 役割

キャンドルのつどいには以下の役割が考えられます。

役割名	はたらき
火の神	火の神の言葉～つどい全体を見守る ※可能ならば北極星を背にした位置に座る
火の巫女	ろうそくで火を運び、火の神を導く
火の守（もり）	各グループ代表者
エールマスター	主に全体の司会・進行
レクマスター	第2部交歓の司会・進行
キャンドルキーパー	火加減を調整する係

3 ながれ

主に3部に分かれます。キャンドルのつどいの要素には「4S」があります。

4S	Song	ソング	歌
	Stunts	スタント	出し物
	Story	ストーリー	物語
	Showmanship	ショーマンシップ	演出

この4Sのバランスを考え、団体全員で取り組みましょう。

(1) 集合・整列

- ① 会場とは別の場所（手前）に参加者を集合させる。
※本館の場合…「オリエンテーションホール」または「食堂」
別館の場合…「多目的小ホール」
- ② 全体指導は以下の通り
 - ・人員点呼
 - ・健康観察
 - ・入場は心を落ち着け穏やかに

(2) 第1部 迎火（点火のセレモニー）

【10～20分】

- ① はじめの言葉
- ② 火の神入場
 - ・♪「遠き山に日は落ちて」を全員で歌い、火の神を迎える。
 - ・火の神は、火の巫女に先導され、会場を時計と反対回りで一周し、定位

置につく。

③ 火の神の言葉

④ 分火の儀式

- ・各班代表の火の守はトーチを持ち、火の神の前にひざまづく
- ・火の神→火の守

⑤ 点火

- ・火の神の発声により、火の巫女と火の守が中央の特大燭台に点火する。

⑥ エールマスターの言葉

- ・♪「ほしかげさやかに（またはふるさと）」を全員で歌う。

※屋内では「燃えろよ燃えろ」は歌詞の内容がふさわしくないため、避けることが望ましい。

「火の粉を巻きあげ 天まで焦がせ♪」＝屋根まで焦がす？＝火事を願う？

⑦ 第2部への準備

- ・キャンドルキーパーが火の巫女からキャンドルを受け取って消火する。
- ・キャンドルキーパーは、特大燭台とブルーシートを会場の隅に下げる。
- ・火の巫女は、会場の袖部分で衣装を脱ぎ、班の仲間に合流する。

※ろうそくの火は、基本的に第3部で使用する分だけを残して消す。

ただし、人手がなく管理が難しい場合には安全のため全て消す。その場合、第3部が始まる前に参加者の見えない所で点火する。

(3) 第2部…交歓

【40~60分】

① レクマスターの司会進行で、出し物を披露する。

- ・レクリエーション（ゲーム・ダンス）
- ・スタンツ（グループ・クラス毎に）
- ・歌

② 第2部最後の出し物の前に、火の巫女は衣装を着て、ろうそくを準備し、火の神の前に移動する

③ キャンドルキーパーは、特大燭台とブルーシートを中央に戻す。特大燭台のろうそくは、火がついた状態にしておく。

(4) 第3部…送火

【10~20分】

① エールマスターの言葉

② 採火の儀式

- ・火の守（→班長）→班員の順に火をリレーする。
- ・火の巫女は採火後、火の神の前に戻る。

※分火の際は、事前指導「ろうそくの火の受け渡し」を参考に、床にろうそくがたれないよう留意する。

- ・火の神（営火長）の言葉

③ 火の神退場

- ・♪「今日の日はさようなら」を全員で歌い、火の神を送る。
- ・火の神は巫女に先導され、会場を一周して退場する。

④ 終わりの言葉

- ・参加者が退場する際、会場出口で個人用のろうそくを回収する。

→使用したろうそく…回収用のバケツの中へ

→個人用燭台 …木製のトレーの中へ



(5) 退場・振り返り

- ① 3部の余韻が残るように静かに集合した場所まで移動する。
- ② しおりに感想を記入すると、思い出が残るとともに、集いの中で感じたことや考えたことを振り返ることができる。

盛り上げるポイント

★ 活動時間 … 長すぎないように留意。1時間30分程度で余韻を残す。

4 片付け

① 消火

特大燭台のろうそくの火を消火し、「ろう」が固まった後、他の用具と一緒にまとめましょう。所員が片付けます。

② 会場の確認と消灯

- ☐ 忘れ物のチェックをお願いします。
- ☐ 持ち込んで使用した物でごみになった物は、持ち帰ってください。
- ☐ ろうが床に落ちて付着している場合、やわらかいものさし（定規等）で削り取って、きれいにしてください。その際、床を傷つけないように気を付けてください。
- ☐ 会場の窓を施錠し、消灯をお願いします。

③ 用具の片付け

- ☐ 会場に準備してあった物は、会場にまとめて置いておいてください。所員が片付けます。
 - ☐ 事務室で貸し出した物は、事務室に戻してください。その際、終了と消灯完了の報告をしてください。
- ※ 床に垂れてしまった「ろう」は、安全のため削り取っていただきます。まずは所員に声を掛けてください。



活動名	ナイトウォーク											
概要と期待できる教育的効果	夜、月明かりや懐中電灯の明かりを頼りに暗い道を歩くことで、グループの協調性と仲間意識を高めることができる。 - 夜の世界の不思議さや怖さを感じながら、改めて電灯のある生活の価値を見直すことができる。											
諸条件	場 所	スタート、ゴール …本館玄関 または集会広場	対 象	小学生以上								
	所要時間	コース1周…約20～60分間	人 数	任意（1グループ4～6人がお勧め）								
	時 期	全シーズン	天 候	雨天不可								
	センター所員の支援	有 ・ ☒ 無 ☐	その他	- 資料をホームページよりダウンロード可 - 本部やチェックポイントが必要 - 指導者が引率する大集団でのハイキングも可								
準備物	センターが貸し出す物 無線機（親機）×1台 無線機（子機）×14台 指導者用マグネット&マップ×1 ※各上限 チェックポイントを必ず設ける ※夜は昼間と違い道がわかりにくい		団体（個人）が準備する物 個人 ☐ 登山装備（防寒具） ☐ 懐中電灯 団体 ☐ 地図（ラミネート処理を推奨） ☐ 救急用品 ☐ グループ名簿 ☐ 緊急連絡簿									
活動内容（手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10分</td> <td>始めの会（P2参照）</td> </tr> <tr> <td>40分～</td> <td> ☐スタート方法…グループごと ☐指導者の立っているポイントごとに人員点呼～健康観察 ☐コース…北コース、南コース、ボンタコース </td> </tr> <tr> <td>5分</td> <td>終わりの会（P2参照）</td> </tr> </tbody> </table>				所要時間	内 容	10分	始めの会（P2参照）	40分～	☐ スタート方法…グループごと ☐ 指導者の立っているポイントごとに人員点呼～健康観察 ☐ コース…北コース、南コース、ボンタコース	5分	終わりの会（P2参照）
所要時間	内 容											
10分	始めの会（P2参照）											
40分～	☐ スタート方法…グループごと ☐ 指導者の立っているポイントごとに人員点呼～健康観察 ☐ コース…北コース、南コース、ボンタコース											
5分	終わりの会（P2参照）											
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐ 疲労による事故（熱中症含む） ☐ 山の環境による事故（転倒、転落、落石、浮き石を踏んだ捻挫、はち刺され等） ☐ 人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）											

ナイトウォークについて

ここがオススメ！

- ・昼間接することのできない自然を、新たに見つけることができます。
- ・集団作りやリーダーの養成に適しており、集団内の協力やまとまりを高められます。

1 事前の準備

(1) 下見を通して、以下を確認します。

確認項目	決定事項
①指導者の人数	本部（スタート・ゴール）×（ ）人 ポイントに立つ指導者×（ ）人
②グループの人数構成	（ ）人 ※学級単位でも可
③活動時間	（ ）時（ ）分～（ ）時（ ）分 （ ）分間 スタートの間隔（3・5・ ）分間

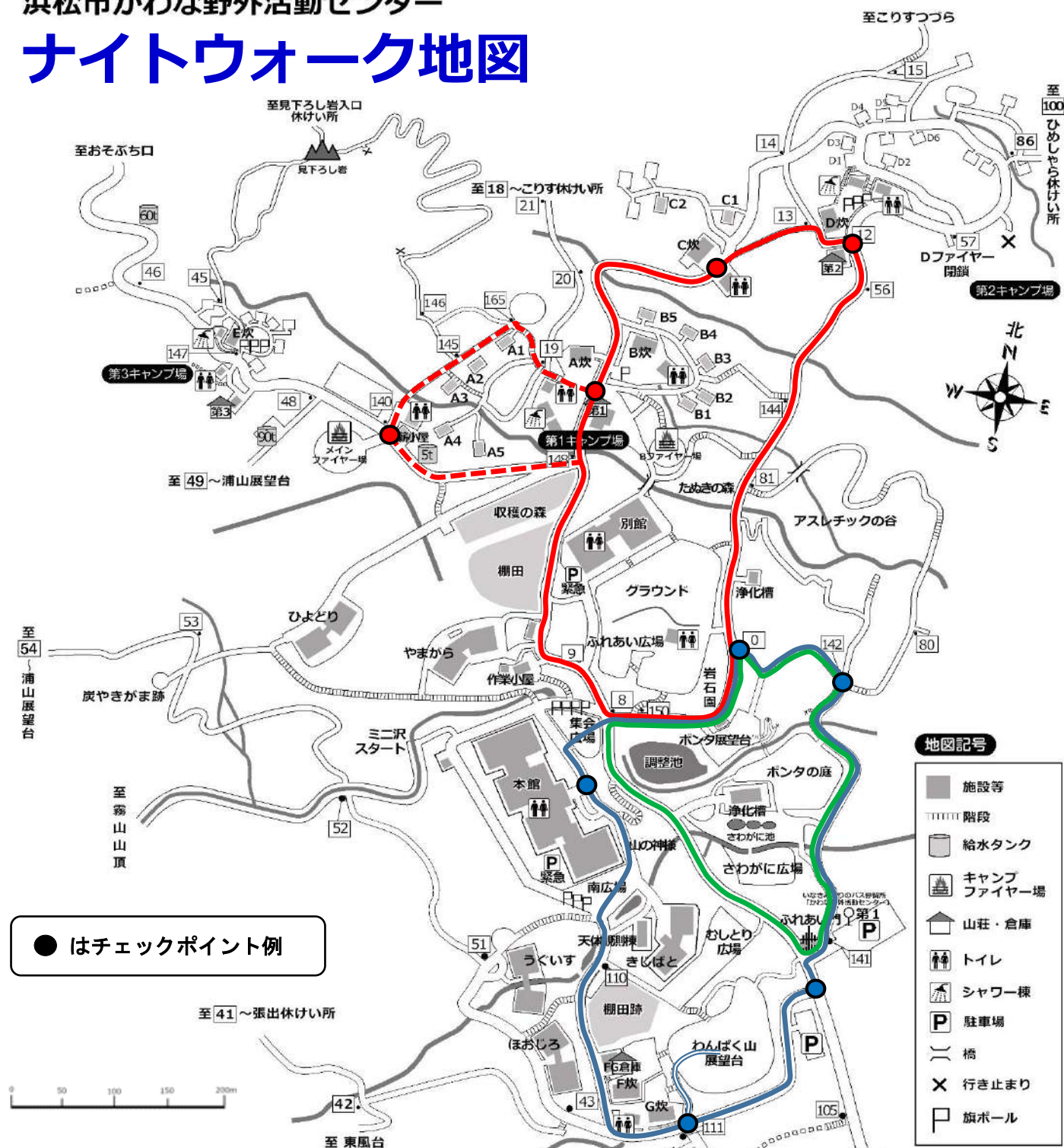
- (2) 各グループにラミネート処理された地図を配付します。
(3) 実施する当日、追加するポイントがある場合、設置します。
(4) 留意点…①独自でコースを考える場合、必ず当センターに相談してください。
②昼間散策を兼ね、参加者にコースを歩かせるのも有効です。

2 やり方の説明（例）

- (1) 「地図にある矢印に従って、“一方通行”で歩きましょう。」
「逆ルートは、急な階段や坂道を下ることになり、危険です。」
(2) 「コースには、必ず反射テープが巻かれています。」
「懐中電灯で探しながらたどって進みましょう。」
(3) 「スタートは集会広場です。」
「ゴールは（ ）です。」
「スタートは（3・5・ ）分間隔です。」
「活動中、グループ同士が重なってしまった場合、
チェックポイントで時間差を付けてスタートすることもあります。」
(4) 「絶対に単独行動をせず、グループでかたまって歩きましょう。」
「道の隅を歩いたり、横道に入ったりしないでください。」
「道に迷った場合、むやみに進まず、チェックを受けた指導者の地点まで戻り
ましょう。」
(5) 「時には立ち止まって、周りの様子を眺めたり、耳を澄ましたりして、夜の
自然を観察するのも興味深いです！」



ナイトウォーク地図



● はチェックポイント例

- | | | |
|---------|------------|-----------------------------|
| — A | 北コース | ABCD炊飯棟を回る30分コース |
| B | 北コース (ロング) | ABCD炊飯棟とメインファイヤー場を回る40分コース |
| — C | ポンタコース | ふれあい門を通り、ポンタの庭をぐるっと回る20分コース |
| — D | 南コース | わんぱく山展望台とポンタの庭を回る30分コース |
| — E | 南北フルコース | 南北を合わせた一番ロングの60分コース |

※本館前（または集会広場・南広場）をスタート・ゴールとします。
 ※原則、全てのコース反時計回りとし、逆回りや兩回りはしません。
 ※コースの時間は、グループ単位で活動した際のおよその目安です。
 ※D・Eコースは、天体観望など南広場の利用がない場合に実施できます。
 ※地図データは各コースごとにダウンロードできます。

活動名	天体観望											
概要と期待できる教育的効果	- 星座の見方を夜空を見上げながら解説を聞くことで、星座への興味関心を高めることができる。 - 望遠鏡で天体を観望することで、天体の美しさに感動する情操を養うことができる。 											
諸条件	場 所	南広場・天体観測棟	対 象	すべて								
	所要時間	30～120分間	人 数	制限なし（要相談）								
	時 期	全シーズン	天 候	雨天曇天は天文教室のみ								
	センター所員の支援	有 ・ 無	その他									
準備物	センターが貸し出す物		団体（個人）が準備する物									
	なし		個人口防寒具 口懐中電灯									
活動内容（手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5～10分</td> <td> 始めの会 ①あいさつ ②季節の星空紹介 ③望遠鏡の見方・注意事項 </td> </tr> <tr> <td>20～100分</td> <td> 天体観望（①～②の一部、または全てを選択） ①大望遠鏡（40cm反射望遠鏡）での観望 ②小望遠鏡（8cm屈折望遠鏡）での観望 </td> </tr> <tr> <td>5分</td> <td>終わりの会（あいさつ）</td> </tr> </tbody> </table>				所要時間	内 容	5～10分	始めの会 ①あいさつ ②季節の星空紹介 ③望遠鏡の見方・注意事項	20～100分	天体観望（①～②の一部、または全てを選択） ①大望遠鏡（40cm反射望遠鏡）での観望 ②小望遠鏡（8cm屈折望遠鏡）での観望	5分	終わりの会（あいさつ）
所要時間	内 容											
5～10分	始めの会 ①あいさつ ②季節の星空紹介 ③望遠鏡の見方・注意事項											
20～100分	天体観望（①～②の一部、または全てを選択） ①大望遠鏡（40cm反射望遠鏡）での観望 ②小望遠鏡（8cm屈折望遠鏡）での観望											
5分	終わりの会（あいさつ）											
想定されるリスク	☐ 天候の悪化による事故（落雷、濃霧による迷子、雨による転倒等） ☐ 暗闇による迷子 ☐ 大望遠鏡に登る階段での事故（踏み外しによる転倒等） ☐ 人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）											

活動名	天文教室							
概要と期待できる教育的効果	季節の星座の見方やその特徴を、プレゼンテーションを通して聞くことで、星座への興味関心を高めることができる。							
諸条件	場 所	食堂	対 象	すべて				
	所要時間	20～30分間	人 数	制限なし（要相談）				
	時 期	全シーズン	天 候	制限なし				
	センター所員の支援	☒ 有 ・ ☐ 無	その他					
準備物	センターが貸し出す物		団体（個人）が準備する物					
	なし		なし					
活動内容 （手順）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所要時間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～30分</td> <td>①あいさつ～所員紹介 ②プレゼンテーション ③あいさつ</td> </tr> </tbody> </table>				所要時間	内 容	20～30分	①あいさつ～所員紹介 ②プレゼンテーション ③あいさつ
所要時間	内 容							
20～30分	①あいさつ～所員紹介 ②プレゼンテーション ③あいさつ							
想定されるリスク	□人的要因で起こる事故（ふざけての事故等）							

天体観望・天文教室について

1 天体観望の準備

(1) 1グループ約40人までを基準に対応します。(事前打合せで要相談)

パターン①…人数が40人程度の場合、順次天体観測棟に入り実施。

例：全員で小望遠鏡→全員で大望遠鏡

パターン②…人数が40人以上の場合、40人までのグループに編成し、大小2種類の望遠鏡での観望と、その他の活動のローテーション。

例：小望遠鏡→大望遠鏡→夜散歩の3ローテーション

※安全確保ができる指導者の人数を考慮してください。

(2) 観望時間の見通し…「各望遠鏡は1人30秒」で概算してください。

2 事前指導

以下の内容を指導してください。

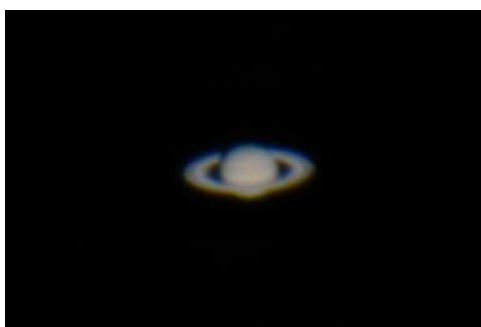
- ①懐中電灯をむやみにつけません。…暗闇に慣れた目がリセットされてしまうため
- ②望遠鏡にはさわりません。…観望対象物がずれないようにするため

3 観望できる衛星・惑星・星雲・星団

月、金星、木星、土星、アンドロメダ銀河(M31)、オリオン大星雲(M42)、各種星団などを観望できます。季節により、見られる天体は変わります。



〈月〉



〈土星〉



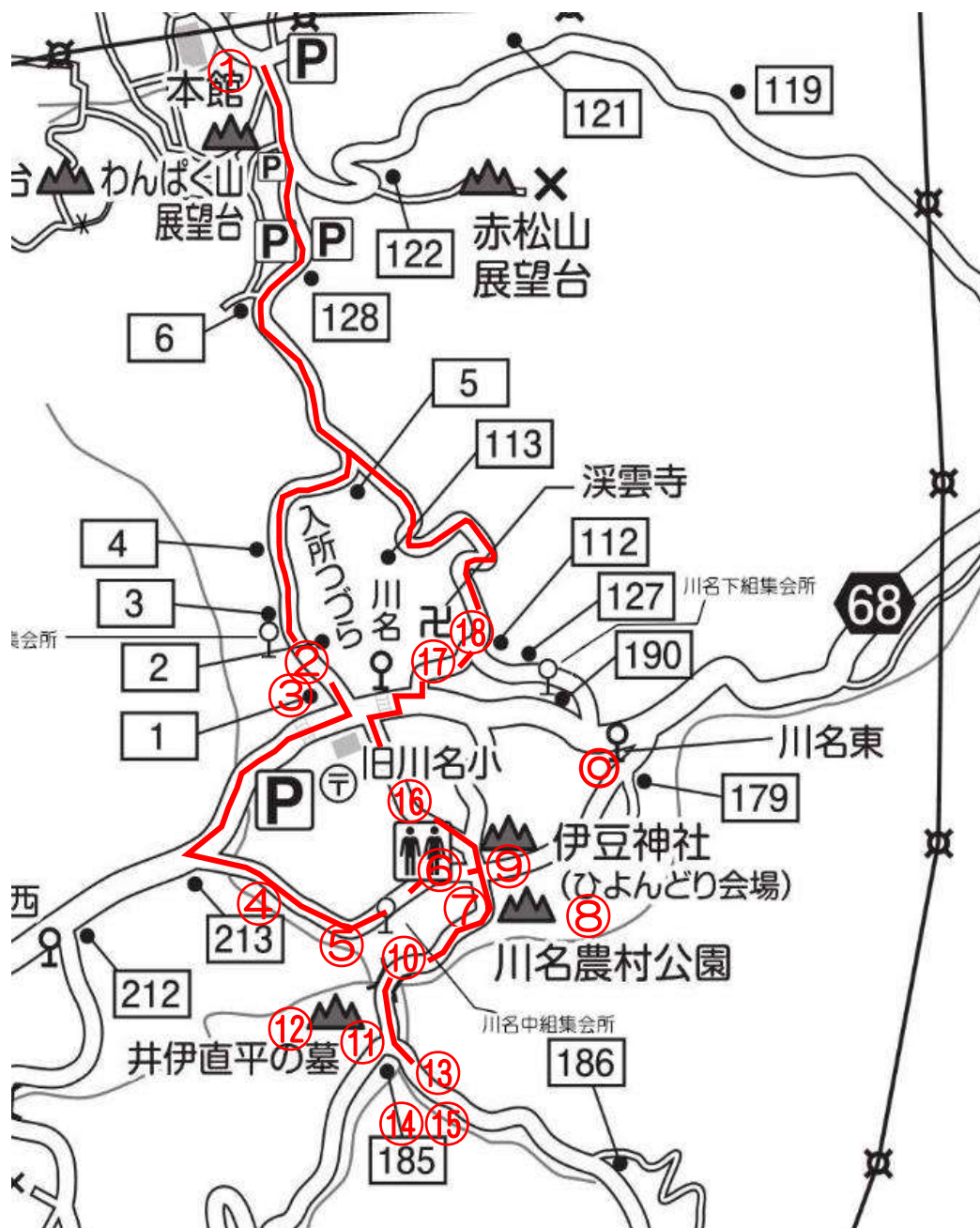
〈40cm 反射望遠鏡〉

4 曇・雨天時の天体観望

曇・雨天時は天体観望ができません。そのため、天文教室を食堂で実施することができます。(事前打ち合わせで要相談)

活動名	川名地区史跡めぐりウォーク
概要と期待できる教育的効果	川名地区に古くから残されている寺社や墓所などの史跡を巡ることを通して、川名地区への理解と愛着を深めることができる。また、寺社や伝統芸能、井伊家の歴史等への興味・関心を広げることができる。

1 史跡めぐりコース



※①～⑮以外にも、川名地区には多数の史跡があります。興味のある方は所員までお問い合わせください。

※上記の地図と次ページの写真資料はHPからダウンロードできます。各史跡の詳細資料など必要の方は、所員までお問い合わせください。

※上記史跡に加えて滝沢展望台に行くコースが、「ウォークラリー（5h 滝沢コース）」に設定されています。そちらもご覧ください。

2 史跡写真 (①～⑱)



①山の神（上組）



②道の小さな神様



③道祖神



④西沢の大きな岩



⑤西之輪龍燈様



⑥おみたらしの井戸



⑦御新田



⑧呪文山（経王塔）



⑨伊豆神社エリア

←左から津島神社、伊豆神社
忠魂碑、福満寺薬師堂
子ども地蔵
鳥居横 伊豆神社常夜灯
津島神社裏 天白社



←福満寺薬師堂
で行われる「国指
定無形民俗文化
財 ひよんどり」
の様子



⑩鎧橋



⑪古くから残る石段



⑫井伊直平の墓



⑬若宮三社神社とモロー様



⑭六所神社



⑮役行者



⑯平秋葉龍燈様



⑰上野花次郎さんの碑



⑱溪雲寺



⑱-1 観音堂

←本堂周辺に
⑱-1 観音堂
-2 念仏塔
-3 お地蔵様
-4 庚申塔
-5 経王塔



◎東福寺観音堂 跡

(H30 取り壊し)

参考)『伝統芸能の里 史跡ガイドブック』NPO法人かわなの里 ほぐせんぼ 他

「活動プログラムガイドブック」

編集 浜松市かわな野外活動センター
発行 浜松市かわな野外活動センター
〒431-2202
静岡県浜松市浜名区引佐町川名455番地の5
TEL (053) 544-0219
FAX (053) 544-0210
E-MAIL kawana@hamamatsu-sports.or.jp

かわな野外活動センター

検索

